

2023（令和5）年度

事業報告書

学校法人 大阪歯科大学

## 目 次

はじめに	1
第1部 事業の概要及び附属資料	2
建学の精神	2
沿革	2
学校法人大阪歯科大学組織図	3
学校法人名称及び所在地	4
役員・評議員	4
教職員数	5
学生の状況	6
I. 大学全体	7
II. 歯学部歯学科・大学院歯学研究科	8
III. 医療保健学部（口腔保健学科・口腔工学科）・大学院医療保健学研究科	17
IV. 看護学部看護学科	26
V. 研究に関すること	31
VI. 外部資金による教育研究等の進展	33
VII. 国際交流	34
VIII. 社会連携・社会貢献	34
IX. 附置施設の活動	35
X. 教員力の向上	38
XI. 附属病院の取り組み	39
XII. 施設・設備（教育研究等環境）の整備	43
XIII. 法人・大学の管理・運営	43
附属資料	45
第2部 財務状況の概要	58

## はじめに

大阪歯科大学は、建学の精神である「博愛公益」を基調とした100年を超える歩みの中で、歯科医学・医療の発展に寄与してきた。

2023（令和5）年度は、教育、研究、臨床の発展充実、経営の効率化を目指すとともに、「第1期中期計画」「第1期中期財政アクションプラン」（2020年度～2024年度）を推進し、建学の精神の一層の具現化を停滞させることなく各種事業に取り組んだ。

本学は、「学修者本位の教育への転換」のための取り組みを継続するとともに、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」にあるSDGs、Society5.0、地方創生及び地域連携を盛り込み、持続的な教員力の向上を図った。

歯学部では、初年次教育の充実、オナーズ教育への注力、共用試験、臨床実習、歯科医師国家試験の成績向上に取り組んだ。学生の受け入れでは、安定した入学志願者数により定員を充足した。また、2023年度に大学基準協会歯学教育評価（分野別評価）を受審し、適合認定を受けた。

大学院歯学研究科では、一般、社会人、外国人留学生の各区分で入学者を募集するとともに、大学院生の研究活動の活性化を図った。

医療保健学部では、歯科衛生士、歯科技工士両国家試験で第1期生以来、4年連続合格率100%を達成し、また、社会福祉士国家試験は、昨年度同様新卒者は全員合格した。

大学院医療保健学研究科では、修士（口腔科学）の学位取得者は9名で、また博士（口腔科学）の学位取得者は3名であった。

看護学部看護学科に関しては、2023年9月4日付で文部科学省から設置認可となり、2024年3月25日に看護学部の基本棟となる「楠葉西学舎」の竣工式が執り行われた。

附属病院では、理事会傘下の附属病院組織改革委員会の検討を踏まえ、医療の質向上と経営効率化に成果を上げ収支が大きく改善した。

「医療イノベーション研究推進機構」（Translational Research Institute for Medical Innovation：TRIMI）では、「研究実験センター」「先進医療研究センター」「事業化研究推進センター」を擁し、積極的に特色ある研究の推進に取り組んでいる。

2023年8月には立命館大学と学術交流協定を締結し、2024年3月には口腔・リハビリテーション・栄養コンソーシアムを設立し、3カ年の事業として共同研究を行うことになった。

大阪歯科大学歯科衛生士研修センターでは、歯科衛生士のリカレント教育の拠点として開設6年目の研修が無事終了した。

以上、今後とも教育・研究・臨床等の一層の充実発展を目指していくものである。

# 第 1 部 事業の概要及び附属資料

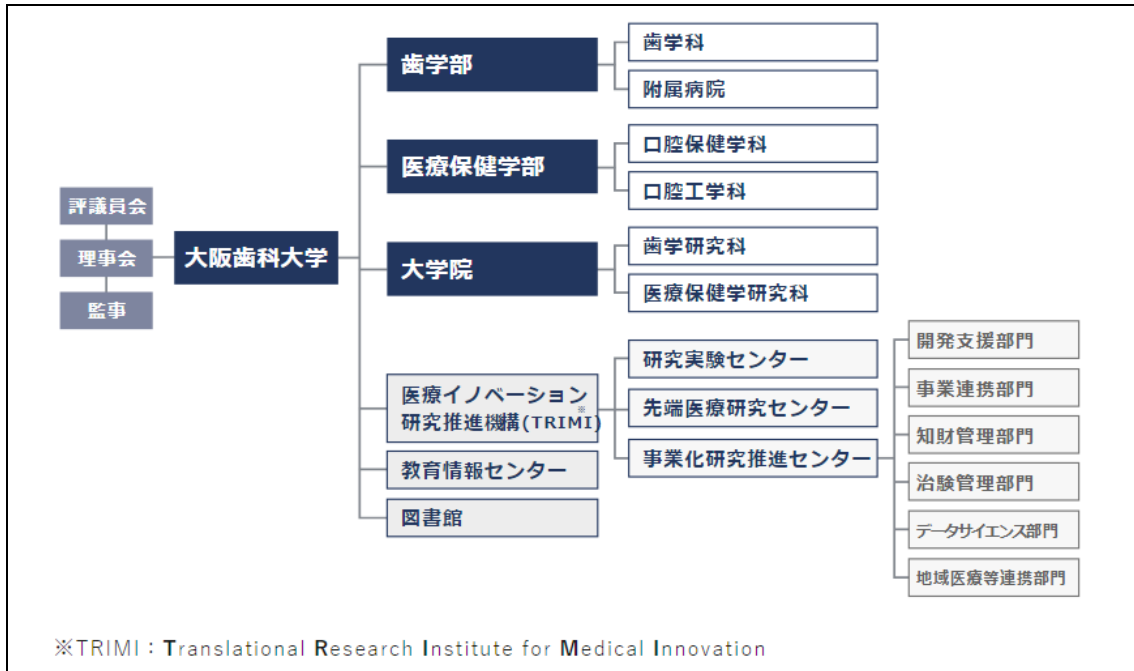
## 建学の精神

歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕の人生観を体得して、「博愛」と「公益」に努める。

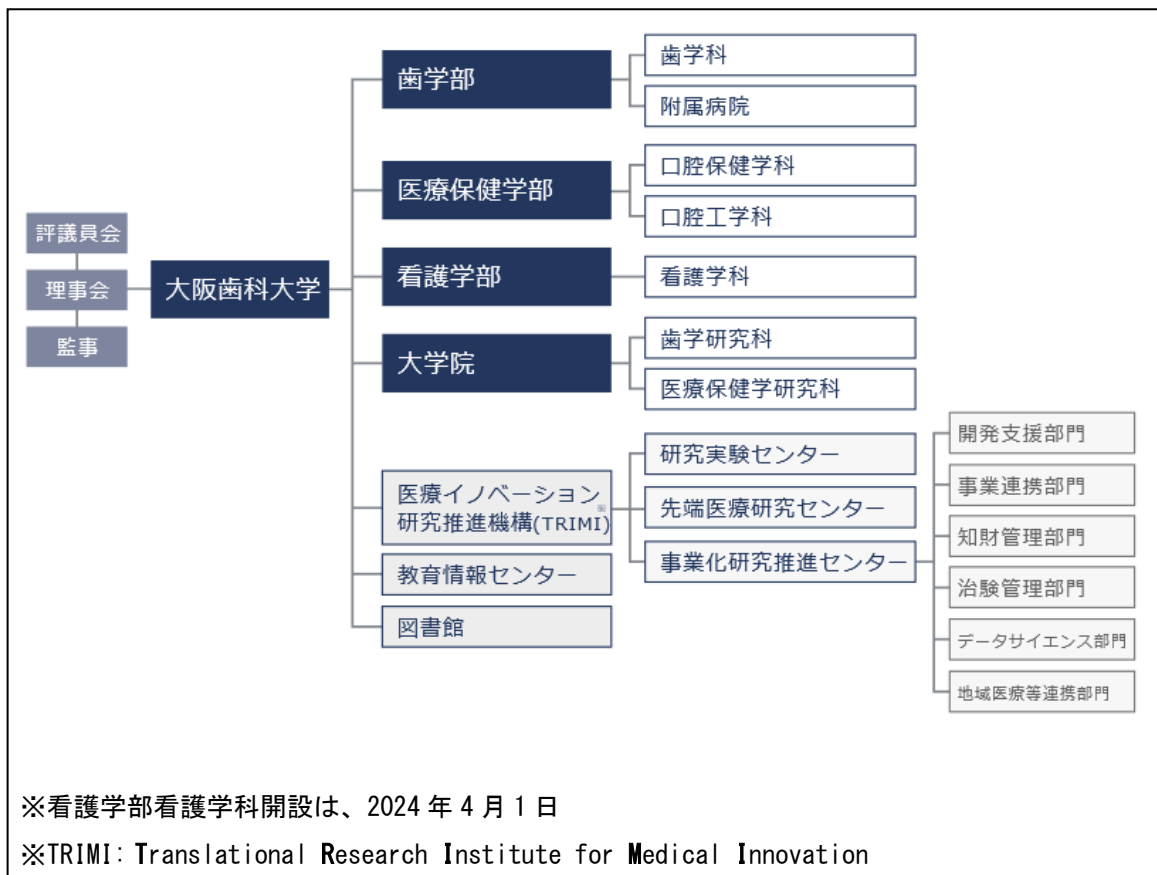
## 沿革

1911（明治44）年12月12日	大阪歯科医学校設立
1912（明治45）年1月14日	大阪歯科医学校開校式（創立記念日）
1917（大正6）年9月7日	財団法人大阪歯科医学専門学校設立
1917（大正6）年9月25日	大阪歯科医学専門学校開校
1947（昭和22）年6月18日	大学令に基づく旧制大阪歯科大学設立（大学昇格記念日）
1951（昭和26）年3月2日	私立学校法に基づく学校法人大阪歯科大学へ組織変更認可
1952（昭和27）年2月20日	学校教育法に基づく新制大阪歯科大学設置認可
1961（昭和36）年3月31日	大阪歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）設置認可
1964（昭和39）年4月17日	大阪歯科大学附属歯科技工士養成所（大阪歯科大学歯科技工士専門学校）開設
1968（昭和43）年5月1日	大阪歯科大学附属歯科衛生士学校（大阪歯科大学歯科衛生士専門学校）開設
1997（平成9）年4月1日	楠葉学舎、天満橋学舎附属病院竣工、牧野学舎（体育・課外活動施設）と合わせて3学舎体制となる。
2011（平成23）年11月11日	創立100周年記念式典挙行
2016（平成28）年8月31日	大阪歯科大学医療保健学部（口腔保健学科、口腔工学科）設置認可
2017（平成29）年8月29日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）設置認可
2018（平成30）年3月31日	大阪歯科大学歯科技工士専門学校廃止
2019（平成31）年3月31日	大阪歯科大学歯科衛生士専門学校廃止
2019（令和元）年11月19日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）設置認可
2023（令和5）年9月4日	大阪歯科大学看護学部看護学科設置認可

学校法人大阪歯科大学組織図（2023年4月～8月）



学校法人大阪歯科大学組織図（2023年9月～）



## 学校法人名称及び所在地

学校法人大阪歯科大学 大阪府大阪市中央区大手前1丁目5番17号

(楠葉学舎)

大阪歯科大学歯学部歯学科 大阪府枚方市楠葉花園町8番1号

大阪歯科大学大学院歯学研究科

(楠葉西学舎)

大阪歯科大学看護学部看護学科 大阪府枚方市楠葉花園町11番8号

(牧野学舎)

大阪歯科大学医療保健学部 大阪府枚方市牧野本町1丁目4番4号

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科

(天満橋学舎)

大阪歯科大学附属病院 大阪府大阪市中央区大手前1丁目5番17号

## 役員・評議員(2024年3月31日現在)

[順不同、敬称略]

【役員】理事：定数7名以上11名以内 現員10名

監事：定数2名 現員2名

	氏名	現職・主な職歴・就任年等
理事長	川添 堯彬	大阪歯科大学学長(2007.10)
常務理事	田中 昭男	大阪歯科大学副学長・歯学部長(2007.10)
理事	山本 一世	大阪歯科大学教務部長(2022.4)
理事	三宅 達郎	大阪歯科大学教授・国際交流部長(2022.4)
理事	藤原 眞一	大阪歯科大学教授(2022.4)
理事	上田 雅俊	学校法人大阪歯科大学評議員(2014.5) 学校法人大阪歯科大学理事(2018.4)
理事	中嶋 正博	大阪歯科大学附属病院長(2022.4)
理事	諏訪 文彦	大阪歯科大学名誉教授(2022.4)
理事	古川 壽男	歯科医師(2022.4)
理事	中尾 昌彦	学校法人大阪歯科大学経理部長(2024.3)
監事	本井 文夫	弁護士(2014.4)
監事	生駒 等	歯科医師・大阪歯科大学同窓会長(2018.4)

---

【評議員】定数 30 名以上 40 名以内 現員 39 名

○選任区分 氏名

---

○本法人理事会理事互選（2名）

川添 堯彬（理事長）、中嶋 正博（理事）

○本学教授会推薦（歯学部教授 12名）

池尾 隆、松本 尚之、梅田 誠、辻林 徹、前田 博史  
馬場 俊輔、百田 義弘、高橋 一也、富永 和也、沖永 敏則  
野崎 中成、井関 富雄

○本学同窓会推薦（本学卒業生・歯科医師 15名）

岡田 太郎、岡本 学、澤田 隆、芦田 欣一、安宅 公男  
和手 甚京、城村 幸治、酒井 昭則、恩田 信雄、加藤 信次  
橋本 成人、吉光 博史、大塚 俊裕、徳富 敏信、大松 高

○本法人理事会推薦（10名）

鈴木 實、北條 博一、松本 圭右、上田 雅俊、末瀬 一彦  
和唐 雅博、柿本 和俊、吉本 一馬、雄西智恵美、中尾 昌彦

### 教職員数（2024年3月1日現在）

専任教員数	208	名
専任職員数	185	名
専任教職員数合計	393	名

学生の状況（2023年5月1日現在）

（名）

設置学部等	修業 年限	入学 定員	入学者数			収容定員	在籍者数
			男子	女子	合計		
歯学部 歯学科	6	160	56	72	128	960	788
医療保健学部 口腔保健学科	4	100	11	95	106	400	390
口腔工学科		70	0	80	80	280	286
		30	11	15	26	120	104
大学院 歯学研究科 博士課程	4	30	23	19	42	120	166
大学院医療保健 学研究科口腔科 学専攻（修士課程）	2	10	1	6	7	20	17
大学院医療保健 学研究科口腔科 学専攻 博士課程（後期）	3	3	0	3	3	9	23
合計		303	91	195	286	1,509	1,384

## I. 大学全体

### 大学全体での取り組み

- ・ 大阪歯科大学は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的としている。この目的達成のため教育・研究・臨床の発展を図った。
- ・ 歯学部の第1学年から第4学年までと大学院歯学研究科は、大阪府枚方市の楠葉学舎にて、また、医療保健学部・大学院医療保健学研究科は、枚方市の牧野学舎にて教育研究活動を行っている。さらに、歯学部の第5・6学年の教育活動及び附属病院での診療活動は、大阪府中央区の天満橋学舎にて行っている。SDGs、Society5.0、地方創生及び地域連携を大学全体における共通の課題として取り組んだ。
- ・ 大学・大学院全体の教学マネジメント（内部質保証推進）組織としての「大学協議会」と、法人委員会である「自己点検・評価委員会」とが連携し、自己点検評価活動に取り組み、2021年度には、大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審し、「大学基準に適合している。」との認定を受け、現在改善課題の解決に取り組んでいる。
- ・ 本学全体の「3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）」と、文部科学省中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針」を基に、大学全体のアセスメント・プランと各学部のアセスメント・プランを定め、人材の育成に取り組んだ。
- ・ 5つの方針（「教育研究組織の設置方針」「学生支援の方針」「教育研究環境の整備の方針」「社会連携・社会貢献の方針」「管理運営の方針」）を基に大学の質の向上を図った。
- ・ 多様な教育体制の展開のため、大阪歯科大学学部等横断カリキュラム検討委員会において、本学の全学的な視点や分野・学部等を超えた横断的な視点からのカリキュラム編成を推進した。「ODU歯科医療連携プログラム」では、「数理・データサイエンス・AI教育領域」として、各学部の既存科目をベースにした特色ある教育の一層の充実を図った。
- ・ 「第1期中期計画」にその全学的な行動目標を定め、建学の精神を基調とする使命感を持った人材育成に努めた。さらに、「第1期中期財政アクションプラン」の進捗状況を注視し、財政の強靱化を図った。
- ・ 看護学部看護学科については、2023年9月4日に設置認可となった。この学部の基本棟となる「楠葉西学舎」は、順調に建設が進み、2024年3月25日に竣工式を迎えた。競合する大学・学部が多い中、新入生の確保、教員の陣容整備など開設に関する準備が順調に進行した（後掲の26ページ「IV. 看護学部看護学科」を参照）。

## Ⅱ. 歯学部歯学科・大学院歯学研究科

### 歯学部歯学科の教育方針

本学の教育方針は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針とに則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。したがって、本学の学生は歯科医師たる適性の素質を持ち、本学の教育方針に沿い得るものでなければならない。歯科医師として必要な適性とは、次の三つに要約される。

- 一、能力的な適性 歯科医学の学理と技術を理解し応用できる知能、学力、技能
- 一、人格的な適性 歯科医師としての使命感、社会観、世界観、態度、意志など幅広い人間性
- 一、身体的な適性 歯科医師としての職務を遂行しうる体力と活動力

以上の、三つの適性はいずれに優劣があるものではなく、どれひとつとして欠かすことのできないものである。本学では6年間の一貫教育を通じて、学生のそれぞれの個性を尊重しながら、以上の適性を涵養、発展させ、人間性豊かな歯科医師を養成することを教育の目標としている。

### ディプロマ・ポリシー

豊かな人間性を支える基盤的能力及び歯科医師としての専門的能力を有機的に備え、新時代の歯科医療に積極的に対応できる人材を輩出する。

・基礎医学及び歯科医学の体系的な知識を有し、これを礎として実社会に還元できる能力を身に付けている。

・種々の情報を自ら収集・分析する科学的探究心を涵養し、自ら問題を発見し、解決できる能力を有している。

・汎用能力及び危機管理能力を持ち、絶えず研鑽を積む習慣を持っている。

・海外研修などを通じて、国際人としての素養を磨きグローバルに活躍できる実力を身に付けている。

・歯科医療を適切かつ確実に行う技能を身に付けている。

・新時代の歯科医療に積極的に取り組み、患者中心の医療並びに人々の求める歯科医療を理解し、チーム医療を主体的に実践できる能力を身に付けている。

・価値観の多様性に対応できる幅広い視野と判断力を身に付けている。

### カリキュラム・ポリシー

「博愛と公益」の精神のもと、「歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献する」という教育方針に基づき、専門的な「知識・技能」、総合的な「人間力・チームワーク」を備えた歯科医学・歯科医療を担う人材を養成する。

## 修得概要

- ・ 6年間一貫教育の中で歯科医師として必要な知識、技能及び態度を修得する。
- ・ 入学時の初年次教育及び早期臨床体験学習から、臨床実習に至る一貫した履修の中で歯科医療人として必要な態度を修得する。
- ・ 歯科英語の修得及び海外研修活動を通して、国際医療人としての素養を身につける。
- ・ 研究マインドの養成のために研究チャレンジに取り組む。
- ・ 学生が意欲を持って学習でき、4年次のコアカリ講義・実習、臨床実習による歯科専門教育を通して、歯科医師として自ら考え、実践する能力及び6年次の統括教育を通じて、歯科医学教育における総合的な知識を修得し、国家試験に合格する能力を身に付ける。
- ・ 診療参加型臨床実習を通じて歯科医師として必要な知識、技能、態度を修得する。
- ・ 患者さんへの思いやり及び社会的責任を果たすことができる倫理観を修得する。

## 教育方法

- ・ シラバスに沿った講義と実習。
- ・ 知識及び技能の獲得のために開発した教材の利用。
- ・ アクティブラーニングのためのグループ学習。
- ・ 学習支援のための小グループ講義。
- ・ 社会と患者との関わりを認識するための体験学習及び臨床実習。

## 学習成果の評価

- ・ シラバスに示す各科目試験及び総括試験。
  - ・ 臨床実習前に行う歯学系共用試験。
  - ・ 臨床実習時の臨床知識試験・歯学系臨床能力試験。
  - ・ 臨床実習終了後の学士試験。
- 以上の各試験によって評価し、進級及び卒業の判定を行う。

## 歯学部歯学科の教育改革

歯学部においては、教学支援体制の充実を図り、建学の精神である「博愛」と「公益」に適う歯科医療人育成を目指し、様々な取り組みを行った。2023年度に大学基準協会の歯学教育評価（分野別評価）を受審し、適合認定を受けた。

### 1. 歯学部における特色ある教育の展開

歯学部では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定め、建学の精神の具現化に努めた。2023年度はコロナ禍も収束し、すべての授業において面接授業を実施した。4月の年度初めは登学に不安を感じる学生もいたが、徐々にその不安も解消され従来の大学生活を取り戻すことができた。コロナ禍の影響で不登校になった学生はいなかった。

第1学年の「態度教育・コミュニケーションⅠ」は、「履修指導」「ホームルーム」等の受講を通じて自学自修や社会人としての健全な生活態度の涵養を目指している。コロナ禍のため、従来の「社会福祉施設体験学習」はカリキュラムから廃止したが、「早期臨床体験学習」はコロナ禍前の内容に戻し、本学附属病院で医療現場を体験した。「現代教養」(3単位)では、マナー指導、学習態度の確立、プレゼンテーション能力などを通して、歯科医師として必要な素養と思考力、判断力、表現力など様々な状況に臨機応変に対応、解決できる能力を養うことを目的とし、PROGテストを通じて問題解決力、言語処理能力などについて、学生自身が自己分析を行った。情報リテラシー教育は、「情報科学」(2単位)を必修としており、その中でパソコンのスキルとともに情報化社会に特有の危険性とその対処法を学んだ。

第2学年の「態度教育・コミュニケーションⅡ」は、ホームルーム、実験動物慰霊祭を通じ、医療従事者としてふさわしい態度、意識を身につけることを目的としている。また、「問題解決基盤」(1単位)は、アクティブ・ラーニング科目の一つであり、与えられた課題について調査・研究し、グループ発表や討議を行うものである。

第3学年の「ゼミナール」(2単位)、「研究チャレンジ」(2単位)は、演習科目として学生を研究室に配属して行うものである。特に「研究チャレンジ」は、研究マインドを学生に涵養することを目的にしており、リサーチリテラシーを涵養し、SCRIP(チューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム)もしくは学生が参加している専門学術大会での成果発表に向けて取り組んだ。なお、2023年度は、第2学年1名がSCRIP日本大会に出場した。

第4学年では、公的化を見据えて共用試験歯学系CBT、OSCEを臨床実習へ至る前の重要な試験として、指導体制の強化を行い成績の向上を図った。特に成績下位者には長期休暇中にも重点的学習により弱点強化を行った。「臨床系歯科医学教育」「総合医学系教育」「歯科医学統合講義」を実施し、臨床実習に向けての関連科目を習得した。なお、医療系大学間共用試験歯学系CBT、OSCEは2024年度から公的化として実施される。

第5学年では、臨床実習必携を整え学生に配付し、学修の徹底を図った。患者中心型診療システム(POS: Patient Oriented System)に基づいて検査、診断、治療計画にいたる情報収集と基本的歯科診療技術の訓練を行った。2019年4月に制定されたチューデントデンティスト認定制度に、第5学年全員が認定を受け、「Student Dentist 認定証」を交付し、臨床実習時には携行させている。診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CCPX)については、順調に試験が実施された。

本学のオナーズ教育の一環としての「グローバル活躍プログラム」を実施した。これは、近年要求される英語での論文発表や、短期海外研修、SCRIPへのエントリーなどグローバルに活躍できる人材の育成を目指し、英会話能力向上のため英会話業者のレッ

スンをサポートするもので、2023年度は33名が取り組んだ（2022年度は16名）。

第6学年においては、国家試験に対応するための「総括講義」と「特別講義」や学生試験と本学指定の模擬試験により、成績の向上に努め、きめ細かな指導（特別アドバイザーによる弱点の克服方法のフィードバック及びティーチング・アシスタント（TA）による学修補助等）を行った結果、第117回歯科医師国家試験の合格率は、新卒者が95.8%となった。なお、本学既卒者についても従来から丁寧な指導を行っている。

#### <新卒者合格率>

[区分]	[受験者数/合格者数]	[合格率全国平均]
2024（令和6）年3月 第117回	95.8%（71人/68人）	81.5%
2023（令和5）年3月 第116回	79.0%（81人/64人）	77.3%
2022（令和4）年3月 第115回	82.9%（70人/58人）	77.1%
2021（令和3）年3月 第114回	92.0%（87人/80人）	80.2%
2020（令和2）年3月 第113回	85.3%（68人/58人）	79.3%

## 2. IR（インスティテューショナル・リサーチ）室の活動

学修成果を可視化するためホームページにIR情報を掲載した。その項目は、次のとおりである。

[2023年度実施分]

【全学】2022年度学生による授業評価結果（2023/9/29）

【歯学部】2022年度卒業生成長実感調査（2023/9/29）

【医療保健学部】2022年度卒業生成長実感調査（2023/9/29）

「ODU歯科医療連携プログラム 数理・データサイエンス・AI領域」については、動画教材を本学教員の協力のもと作成した。また、歯学部の2023年度新入生にPROGテスト、第3学年にはGPS-Academicを実施し、問題解決力、言語処理能力などについて、他大学学生の傾向との比較分析を行った。

## 3. カリキュラム2022のスタート

歯学系CBT、歯科医師国家試験の難化に伴う対応として2022年度から新カリキュラムをスタートさせている。2023年度は第1、第2学年が新カリキュラムによる時間割で授業を行った。主な変更点として、旧カリキュラムでは第2学年科目であった口腔解剖学や組織学を第1学年に移行した。

## 4. 教育環境の整備

本学では、「教育研究環境の整備の方針」を制定し、その中で「学生の学びについて、多様な授業形態に対応できる環境を整備する。」としている。今年度はPC・LL教室サーバの更新等を行った。

## 5. 本学へ献体されたご遺体を用いた手術手技研修 (Cadaver Surgical Training)

本学は、厚生労働省が進める医師・歯科医師に対する教育・研究の場を提供する体制として、大阪歯科大学CST委員会を設置（2020年8月）し、医師・歯科医師の医療技術や医療安全の向上に努めており、2021年度から標記の研修を実施している。

2023年度は、下記の日程で研修を実施した。

実施日：2023年9月3日（日）

課題名：歯科医師のためのカダバー・サージカル・トレーニング

～大規模災害のライフライン未復旧での状況を想定した身元確認訓練～

参加人数 12名 見学者 8名

実施日：2023年9月23日（土）・24日（日）

課題名：超音波装置を用いたカダバー・サージカル・トレーニング

～安全な施術、リハビリテーションを目指して～

参加人数 4名 見学者 46名

実施日：2023年10月14日（土）・15日（日）

課題名：歯科医師のためのカダバー・サージカル・トレーニング

～安全なインプラント外科・歯周外科を目指して～

参加人数 22名 見学者 24名

実施日：2023年10月22日（日）

課題名：歯科医師のためのカダバー・サージカル・トレーニング

～安全な口腔外科手術を目指して～

参加人数 4名

## 6. 入学志願者増加への取り組み

### アドミッション・ポリシー

歯学部歯学科では、先輩たちが弛まぬ努力で築いた礎を守りながら、「博愛」と「公益」の建学の精神に基づき、新時代の人々の口腔の健康を守る歯科医療を担うことのできる人材を養成する。そのため、次のような能力や態度・資質を備えた人を求める。

#### 【求める人物像】

- ・ 歯科医学を学ぶために十分な基礎学力を有する人
- ・ 医療人として社会に奉仕し貢献する使命感と気概を持つ人
- ・ 科学的な探究心を持って考え、自ら努力する人
- ・ 十分なコミュニケーション能力を有し、協調性のある人
- ・ 専門的知識、技能、態度を修得して、国家資格の取得に向けて着実に努力する人
- ・ グローバルな視野に立って歯科医学の発展と歯科医療を担う熱意のある人
- ・ 歯科医師としての倫理観、世界観などを備える幅広い豊かな人間力と行動力を持っている人

### 【入学までに修得しておいてほしい学習成果と水準】

歯学部歯学科で学ぶ歯科医学は実学である。これまでに学んだことを、患者をはじめ多くの人々と関わりながら医療の現場で実際に使うことができる能力が求められる。そのため、高校教育で培われた「学力の3要素」（1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）を大学教育で更なる伸長を図るため、次に掲げる知識や技能・思考力・判断力・表現力・多様な人々と協働する精神・態度などを備え、入学後の学びに主体的に取り組むことが望まれる。

#### 知識・技能

- ・ 歯科医学の基礎となる生命科学に関連する数学、理科（物理・化学・生物）の学力
- ・ 高等学校の教育課程における、英語の一般的な読解力、及び基本的な文章力とコミュニケーション能力
- ・ 高等学校の教育課程における、幅広い教科・科目を修得し、論理的に文章を読み解き、自分の考えを論理的に文章として書くことのでき、又、発表することのできる思考力・判断力・表現力
- ・ 様々な現象について自ら調べ、科学的・論理的に考えることができる
- ・ 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを適切に相手に伝えることができる
- 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
- ・ 倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にす態度
- ・ 主体的に生徒会活動や特別活動、ボランティア活動などの課外活動に参加し、他者と協調しながら行動しようとする姿勢

### 【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜方法として、学校推薦型選抜（指定校専願制・公募併願制）、一般選抜（前期・後期）、大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）、プラス1、私費外国人留学生入学者選抜、転入学・編入学試験というさまざまな入学者選抜方式を採用し、総合的に判断し、多様な人材を受け入れることをめざす

#### ・ 知識・技能

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

#### ・ 思考力・判断力・表現力

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

#### ・ 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

面接、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

歯学部は、アドミッション・ポリシーのもと、優秀な学生の確保に取り組んだ。アドミッションセンターは、センター長1名と事務職員5名で構成されている。

オープンキャンパスについて、新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行したことに伴い、特別な制限を加えることなくコロナ前の従来の実施方法で開催した。7月30日に楠葉学舎、8月27日に天満橋学舎にて、来場型形式で開催し、合計554名（楠葉332名+天満橋222名）が参加した。さらに、オンライン型のオープンキャンパスプログラムとして、有名予備校講師による入試対策講座を2023年8月1日から2023年11月17日までの間に配信し、総視聴回数は、362回（英語146回、数学85回、物理35回、化学28回、生物68回）であった。

入学者選抜については、学校推薦型選抜（公募併願制）の出願資格を昨年までの現役のみから1浪まで可に変更したほか、一般選抜では、チョイス2・1などの新制度や、大学入学共通テスト利用選抜にオンライン面接を導入するなど受験機会の拡大をはかり新たな志願者層の開拓に努めた。それに加え、従来の「面接免除制度」、「インターネット出願」、取得時期不問の「英語民間試験利用方式」を継続し、出願促進の方策を実施した。

「英語民間試験利用方式」とは、英語の各種資格・検定試験（注）の結果に基づいて、一定の基準を満たしている場合は、平均点または平均点+10点を保証、あるいは「外国語（英語）」の受験を免除する制度である。

（注）英語の各種民間資格・検定試験について

試験名/CEFR	CEFR B1 平均点	CEFR B2 平均点+10点
英検® (CBT/ S-CBT 含む)	2級 1980~2299 1級 1980~2303	準1級、1級 2304以上
Cambridge English	140以上	160以上
GTEC	960以上	1190以上
TOEIC® (L & Rのみ)	550以上	785以上
TOEIC® (L & R + S & Wの合計)	790以上	1095以上
TOEFL iBT®	42以上	72以上
TEAP (4技能)	225以上	309以上
TEAP CBT (4技能)	420以上	600以上

・いずれも取得時期は問わない。・GTECはオフィシャルスコア（検定受験の成績）のみを認める。・TOEFL ITPテスト、TOEIC L&R IPテスト・TOEIC S&W IPテストは対象とはならない。・TOEFL iBT®はMyBest™スコアも認める。・換算得点は100点を上限とする。

試験場は、大阪会場のほか、一般選抜（前期）において、東京会場、名古屋会場、広島会場、福岡会場を設置した。一般選抜（後期）は、東京会場、福岡会場を設置した。

入学者選抜成績優秀者特待生制度については、6年間の学納金が国立大学と同額となるようにその差額分を減免する制度を新設することで充実を図り、優秀な学生の確保に努めた。学校推薦型選抜公募併願制及び一般選抜（前期）における制度であり、概要は以下のとおりである。

免除額		6年間免除総額	対象人数
1年次	2年次以降		
4,614,200円	4,614,200×5年間	27,685,200円	学校推薦型選抜（公募併願制）1名 一般選抜（前期）2名

※国立大学の授業料の年額は、平成十六年文部科学省令第十六号 国立大学等の授業料その他の費用に関する省令による。

2023年度入学者選抜時に比べ18歳人口が2万人減少したことに加え、ベネッセ/駿台予備学校の模試データによると全国の大学入学共通テスト利用者のうち、歯学部志望者が前年度比94%と減少しており懸念もあったが、本学の入学者選抜志願者数は前年に比べ240.7%と大幅に増加し、募集人員である128名を充足した。これまでの本学の地道な入試広報活動に加え、入学者選抜制度の改革や入学者選抜成績優秀者制度の新設などの一定の活動が実を結んだ結果であると考えられる。なお、転入学・編入学試験については、6名の受験生がいたが合格者はいなかった。

## 7. 学生支援体制

各学年の指導教授、助言教員、特別アドバイザー、教育アドバイザー、大学院生のTAにより日々指導が行われている。「学生カルテ」を活用するとともに、学生には「学習ポートフォリオ」の作成を通じて自己成長を確認させ、適切な助言を行った。特に「育み教育」「寄り添い教育」による支援が必要な学生については、徹底した個人指導を行った。

学生部委員会では、『学生生活ハンドブック』を作成してポートフォリオに掲載し、ホームルームの際にその活用を促した。各学年について、教員が楠葉学舎及び天満橋学舎の研究室に在室し、学生の質問や相談に応じるオフィスアワーを設けた。

高等教育の修学支援新制度について、文部科学省に機関要件確認申請を行い、対象機関として認定を受けた。歯学部では29名が授業料等減免学生となった。

健康管理については、「医務室」に平日は看護師が、また、毎週火・金曜日は医師（非常勤）が在室し学生・教職員への対応を行った。また、楠葉学舎と天満橋学舎の「学生相談室」に専門の臨床心理士（非常勤）を置き、学生の抱える問題に対応した。なお、楠葉学舎では適宜電話相談を行った。

定期的に学生部長、学年指導教授、助言教員又は特別アドバイザー、教務学生課職員、臨床心理士及び看護師により、相談内容について共有を図り、解決に向けての協議を行った。

## 大学院歯学研究科の取り組み

大阪歯科大学大学院歯学研究科は、大学院生に歯学・口腔科学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的としている。

そして、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュ

ラム・ポリシー)、入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を定めている。

#### ○ディプロマ・ポリシー

歯学研究科に必要な年限在学して所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した次の者に博士(歯学)の学位を授与する。

- ・口腔科学研究を担う高度の専門知識と技術を修得して発展できる。
- ・口腔科学に根ざした高度の医療技術を修得して応用できる。
- ・研究者あるいは医療人として高い教養を身に付けて展開できる。
- ・国際社会で医療人として貢献できる。

#### ○カリキュラム・ポリシー

歯学研究の目的である口腔科学の進歩に貢献し得る研究者を養成するために、各専攻科で履修する講義、実習及び学位論文の作成に関する充実したカリキュラムを策定している。

主科目に関しては研究成果に基づき評価し、有為な人材育成を図っている。

- ・生命科学の基盤の上に歯学並びに関連諸分野に関する深い洞察力と専門的知識の修得に加えて、課題探求能力を備えた研究者並びに高度な知識と技術を有する専門職業人養成のための教育を行う。
- ・自立して研究を行うために必要な英語、研究倫理、研究手法などの実践的教育を行う。
- ・先進的な口腔科学に関する研究を遂行できる能力を確立する。
- ・全身との関わりの中で口腔科学研究を遂行できる医療人を育成する。
- ・高い教養と学際的視点を涵養し、国際社会に貢献できる研究能力を獲得する。

#### ○アドミッション・ポリシー

建学の精神である「博愛と公益」の精神を享受し、次世代の研究者・教育者としての基礎知識を有し、歯科医学の知のフロンティアを自ら率先して開拓する強い意欲を有する人を求める。

- ・口腔科学に探究心をもつ人。
- ・高い倫理観とコミュニケーション能力を備えている人。
- ・幅広い視野をもち、創造性とチャレンジ精神に富む人。
- ・自ら問題を発見し、解決する力を備えている人。
- ・グローバルな視野と語学力を身に付け、国際貢献を目指す人。

#### 1. 海外学会発表助成及び学術研究奨励助成金について

大学院生の海外学会発表助成は2件であり、大学院生の研究13件に対して、学術

研究奨励助成金として総額で250万円の助成を行った。

## 2. ティーチング・アシスタント、ポスト・ドクトラルフェロー採用について

ティーチング・アシスタントは、学部学生に対する教育補助として27名を採用し、資質向上を図るための研修を2023年6月に実施した。また、ポスト・ドクトラルフェローは、専門的研究に従事するものであり、1名を採用した。

## 3. 大学院生の入学者増加策等

臨床研修歯科医を対象に入試説明会を行った（2023年7月5日）。

2024年度入試（2023年度実施）は、43名（定員30名）の入学者であった。このうち、外国人留学生特別選抜での入学者の13名をはじめ、社会人特別選抜の入学者は10名であった。

## 4. 大学院FDについて

2024年1月17日（水）「Oregon Health & Science University (OHSU) School of Dentistry Research and Research Training」をテーマに、Hui Wu・オレゴンヘルス&サイエンス大学教授を講師に実施した。

# Ⅲ. 医療保健学部（口腔保健学科・口腔工学科）・大学院医療保健学研究科

## 1. 医療保健学部（口腔保健学科・口腔工学科）設置の趣旨

大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科・口腔工学科は、超高齢社会が必要とする優れた歯科医療人を養成し、口腔の健康を通じて国民が健康で安心して暮らせる社会づくりに貢献することを設置の趣旨としている。

## 2. 学修への取り組み

医療保健学部では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定め、様々な課題解決のため精力的に取り組んだ。

### 医療保健学部のディプロマ・ポリシー

専門技能に加えて、「博愛」の精神を以て患者が抱える問題を解決するとともに、自らが得た知識や考案した技能を「公益」の精神を以て世に提案して社会に貢献できる人材を輩出する。

- ・医療に係わる専門職としての基本的な知識力、技能力、判断力、問題解決力を有している。
- ・自らの講義・実習で得た知識・技能・態度をもとに導き出した内容を適切に提示できる能力を有している。
- ・口腔保健に関する知識、技能及び技術に対して、科学的探究心と向上心を有している。

- ・医療、福祉及び関連する制度に関する広い知識をもち、人々の口腔の健康に寄与できる。
- ・人と温かく接し、歯科医療を通じて社会に貢献する高い倫理観と人間性を持っている。

#### 口腔保健学科のディプロマ・ポリシー

医療保健学部のディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力を身に付けた者に学位を授与する。

- ・口腔の健康を守る専門職としての十分な知識と技能を身に付けている。
- ・医療・福祉分野と多職種連携を図り、ケアプランを策定・実践できる医療専門職として、超高齢社会で主導的に活躍できる。
- ・口腔の健康に関する問題の抽出力と解決能力を有している。

#### 口腔工学科のディプロマ・ポリシー

医療保健学部のディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力を身に付けた者に学位を授与する。

- ・口腔の健康に寄与できる専門職としての十分な知識と高い技能を身に付けている。
- ・医療・福祉分野と多職種連携を図り、知識と技能の提供と適切な提案ができる医療専門職として、超高齢社会で主導的に活躍できる。
- ・口腔工学の発展に寄与し、歯科医療を向上させる能力を有している。
- ・患者とのコミュニケーションを通じて、口腔内装置に関する問題の抽出と解決能力を有している。

#### 医療保健学部のカリキュラム・ポリシー

幅広い知識や技能を修得し、博愛の心をもち、柔軟に対応できる口腔保健学士及び口腔工学士を育成するために必要な教育を施し、歯科医学・歯科医療に携わる人材を輩出する。

#### 口腔保健学科のカリキュラム・ポリシー

医療人としての幅広い教養とコミュニケーション能力を修得して問題解決能力と向上心を醸成し、さらに、超高齢社会に適応する歯科医療専門職として機能的口腔ケア、訪問歯科診療及び幅広い歯科医学知識を修得させ、キャリア教育、教養教育及び総合医学教育を行い、福祉や臨床歯科医学を探求する。

- ・早期臨床体験学習やボランティア活動、臨地・臨床実習を通して、建学の精神である「博愛」と「公益」の心を育成し、良識豊かな倫理観を持つ人間力を養成するとともに患者とのコミュニケーション能力を育成する。
- ・一般教養科目を配置し、社会人としての素養を身に付ける。
- ・基礎系口腔科学、社会系口腔科学、臨床系専門教育及び臨床教育によって歯科衛生士としての知識と技能並びに自主的に問題を抽出して解決する基本的能力を育成する。
- ・口腔工学科と合同の授業、医学及び福祉に関する科目を通して、医療コミュニケーションと多職種連携能力を養成し、医療人としての自覚を醸成する。
- ・「高齢者歯科学」、「口腔保健訪問実習」など的高齢者を対象とした科目を充実させるとともに機能的ケアにも重点を置き、超高齢社会に適応する人材を養成する。
- ・総括教育で自らテーマを決めて探求し、プレゼンテーションすることで、向上心と歯科医療を発展させる能力を養う。

#### 口腔工学科のカリキュラム・ポリシー

医療人としての幅広い教養とコミュニケーション能力を習得し、超高齢社会に適応する歯科医療専門職として必要な新たな歯科技工技術であるデジタル加工技術、さらにキャリア教育、教養教育及び総合医学教育、並びに従来あまり教育されなかった福祉、幅広い臨床歯科医学及びデジタル加工を学習する。

- ・「早期臨床体験学習」やボランティア活動、「医科歯科連携学実習」及び「口腔工学病院臨床実習」を通して、建学の精神である「博愛」と「公益」の心を育成し、良識豊かな倫理観を持つ人間力を養成するとともに患者とのコミュニケーション能力を養成する。
- ・一般教養科目を配置し、社会人としての素養を身に付ける。
- ・基礎系口腔科学、社会系口腔科学及び新しい技工技術を充実させた臨床系専門教育と臨床教育によって、歯科技工士としての知識と技能並びに自主的に問題を抽出して解決する基本的能力を育成する。
- ・口腔保健学科と合同の授業、医学及び福祉に関する科目を通して、医療コミュニケーションと多職種連携能力を養成し、医療人としての自覚を醸成する。
- ・高齢者歯科学、口腔工学訪問実習など的高齢者を対象とした科目を充実させ、超高齢社会に適応する人材を養成する。
- ・総括教育で自らテーマを決めて探究し、プレゼンテーションすることで、向上心と歯科医療を発展させる能力を養う。

#### 1) 教育環境の整備

学部の特徴として、学生には入学時に一人1台のノートPCを貸与しており、学修支

援ポータルサイト「A-portal」を使用し、学生への諸連絡や学生と教員間のコミュニケーションを行うとともに、学生自身が授業の出欠管理、課題提出、履修や成績管理を行うことのできる環境を整えている。

このシステムはクラウドサーバーを使用しており、インターネットに接続できる環境であればどこからでもアクセスでき、本学の教員だけでなく、学外の非常勤講師からも利便性が高く、学生と教員との円滑なコミュニケーションときめ細やかな学習サポート体制を実現している。

## 2) 臨床実習等

臨床実習と社会福祉士関連の実習については、新型コロナウイルス感染症の影響のために、実習先の病院や福祉施設の状況によって、実習の中止あるいは受け入れ人数の縮小を余儀なくされた。このために、学内施設において、これらの実習と同等の学修成果が得られるように配慮した実習を新たに編成して学修時間と成果を確保した。

## 3) 国家試験対策

第4期生の国家試験合格率100%の達成に向けて、国家試験対策講座を国家試験直前まで継続して実施した。学習指導強化を図るため、各学科において対象学生を選定し、担当教員は、学生との面談を踏まえ、具体的な学習計画を立案し個別指導を行った。

その結果、「第33回歯科衛生士国家試験」及び「令和5年度歯科技工士国家試験」において、4年連続で、合格率100%を達成した。

- ・ 第33回歯科衛生士国家試験

口腔保健学科67名が受験し、67名全員が合格。

- ・ 令和5年度歯科技工士国家試験

口腔工学科24名が受験し、24名全員が合格。

- ・ 第36回社会福祉士国家試験

15名（新卒6名・既卒7名）が受験し、9名（新卒者6名、既卒者3名）が合格。

## 3. 学生の受け入れ

医療保健学部が求める学生は、「思いやりの心を持ち、人と温かく接して協調性とコミュニケーション能力に優れ、医療と福祉に高い関心と学習意欲を持ち、社会に貢献できる医療人となるための絶え間ない学習と努力ができる者」とする。各学科においてのアドミッション・ポリシーは以下の通りである。

### 口腔保健学科のアドミッション・ポリシー

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、歯科医療の発展のために独創性がある発想を持つことが必要であり、口腔保健学科として次のような学生を求める。

- ・ 口腔保健学を学ぶための十分な基礎学力を有する人  
特に「英語」、「数学」、「国語」及び「生物」について高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人
- ・ 既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・ 他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・ 自己の健康管理ができる人
- ・ 人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人
- ・ 口腔の衛生管理に強い関心がある人

#### 口腔工学科のアドミッション・ポリシー

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、口腔装置の製作技術に優れ発展させるためには科学技術への関心と開発への興味が必要であり、口腔工学科として次のような学生を求める。

- ・ 口腔工学を学ぶための十分な基礎学力を有する人  
特に「外国語(英語)」、「数学」、「国語」、「生物」、「物理」及び「化学」について、高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人
- ・ 既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・ 科学技術に関心がある人
- ・ 他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・ 自己の健康管理ができる人
- ・ 人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人

2023年度は、感染防止対策を十分に講じた上で、従来の来場型オープンキャンパスを全6回実施し、またスタッフが個別にキャンパスを案内する個別見学型オープンキャンパスも実施した。

#### 【2023年度オープンキャンパス】

第1回	3月21日(火・祝)	牧野学舎	49名
第2回	5月14日(日)	牧野学舎	34名
第3回	6月18日(日)	牧野学舎	50名
第4回	7月23日(日)	牧野学舎	52名
第5回	8月10日(木)	天満橋学舎	11名(口腔工学科限定)
第6回	8月20日(日)	牧野学舎	57名
【個別見学型】	2023年度	牧野学舎	34名

以上 6回の来場型オープンキャンパスと個別見学型オープンキャンパスの参加延べ人数(生徒のみ)は、287名であった。

その他、大阪府・京都府・兵庫県を中心に高等学校訪問、校内での入試ガイダンスを実施、近畿・中四国を中心に会場での進学相談会に参加し、進学情報ウェブサイトへの入試情報の掲載、広報チラシの近畿圏の延べ1000校を超える高等学校への送付など、積極的に広報活動を展開した。

【入学者選抜成績優秀者特待生制度】

・医療保健学部

授業料4年間免除

84万円×4年

4年間免除総額336万円、対象者3名

以上、入試広報活動の結果、医療保健学部の8期目の入学者数は、口腔保健学科で80名、口腔工学科は17名となった。

4. 就職支援の取り組み

医療保健学部では、牧野学舎福利厚生棟1階にキャリアセンターを設置し、就職支援システムを活用した求人情報の提供、就職相談や面接指導など、学生の就職活動をサポートし、定期的にキャリアセミナー、就業体験事業、業界研究セミナーなども開催している。

第4期卒業生の進路について、口腔保健学科においては、歯科診療所と総合病院に大半が就職し、口腔工学科においては、歯科技工所、附属病院、歯科診療所、歯科関連企業など就職先は多岐にわたる結果となった。

第4期卒業生

【口腔保健学科】

求人数1,309人(19.5倍)(※1)

就職64名、その他(活動中等)3名

・総合病院	20.9%
・歯科診療所	68.6%
・歯科系企業	4.5%
・本学附属病院	1.5%
・その他	4.5%

【口腔工学科】

求人数284人(11.8倍)(※1)

就職16名、その他(本学大学院進学など)8名

・歯科技工所	45.8%
・総合病院	4.2%
・歯科診療所	8.3%
・歯科系企業	8.3%
・その他(進学含む)	33.4%

(※1) 求人数は、医療機関のみの数字

5. 学部独自の取り組み

1) 社会連携活動

2023年度は、6月3日(土)寝屋川市「歯の健康展・市民の集い」、翌日6月4日(日)枚方市保健センター「ウォーキングイベント」に、学部学生及び教員がボランティアとして参加し、災害時の歯科グッズの備えや歯磨き・お口のケアの仕方などの資料配布や説明を行った。また、7月28日(金)には、枚方市内の小学生を招い

での「歯科大わくわくキッズセミナー@まきの」を開催。学部学生が説明・指導し、小学生は歯とお口について楽しく学ぶ機会となり、好評のうちに終了した。

## 2) 2023年度生涯学習セミナー

2023年度は、8月26日（土）、天満橋学舎西館8階デジタル加工室において、口腔内スキャナー第3回ハンズオンセミナーを開催、セミナー内容は口腔内スキャニング3Dプリンタによるコピーデンチャー製作で本学部卒業生4名が参加した。

2024年1月27日（土）には学外から講師を招き、天満橋学舎創立100周年記念館において、社会福祉セミナー「臨床で役立つ！Dr・DH・DT向け社会福祉セミナー」として、外部講師（堀内桂氏・社会福祉法人北摂杉の子会）により、「発達障害」に関する理解を深める講演が行われ、卒業生7名、在校生3名、教員14名が参加した。

## 6. 大学院医療保健学研究科

### ・口腔科学専攻（修士課程）

#### ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）では、修了までに所定の単位を修得し、修士論文の審査及び試験に合格した者に修士（口腔科学）の学位を授与します。修得を必要とする能力は次のとおりです。

1. 医療保健学を発展させて人の健康に寄与する研究・開発ができる。
2. 医療保健学に関する先進の高度な専門的知識と技能を持つ。
3. 専門的知識と技能を教育できる。
4. 医療保健学に関する広い見識を持つ。
5. 国際的視野を持つ医療人として活躍できる。

#### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）では、学生をディプロマ・ポリシーの示すレベルに到達させるために、次のカリキュラム・ポリシーを設定しています。カリキュラム・ポリシーに基づいて必要な科目を配置し、教育課程を編成、実施します。そして、レポート、プレゼンテーション及び討議への参加に重点を置いて各科目の到達度を評価するとともに、修士論文を厳正に審査します。

1. 研究に関する基礎的な学修を通じて、研究の立案、計画及び実行能力を身に付ける。
2. 統計手法の学修を中心に、研究情報の集計・分析能力を身に付ける。
3. 論文作成やプレゼンテーション法を学修し、研究結果を提示する能力を身に付ける。
4. 研究実習によって、医療保健学を発展させる能力を養う。
5. 専門性の高い科目によって高度な専門的スキルと知識を涵養する。

6. 教育学に関する科目を設け、教育力を養成する。
7. 歯科衛生士と歯科技工士との合同の科目で広い視野を養う。
8. 英語科目と国際医療に関する科目によって、高い語学力と国際的視野を養う。

#### アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）が求める学生は、医療人としての倫理観を持ち、人の健康を口腔を通じて維持・向上させる意欲をもって研究や教育に取り組む努力ができる者です。また、歯科衛生士と歯科技工士の両方が交流して学修するため、それぞれの専門のみならず、広く医療保健学としての学術的探究心やコミュニケーション能力を持つことを求めます。上記の考えから、アドミッション・ポリシーを定め、次のような学生を求めます。

1. 歯科衛生士又は歯科技工士の資格を持ち、本学大学院課程の履修に必要な学力を持つ者
2. 医療保健学への学術的探究心と発展に貢献する意欲を持つ者
3. 基本的な情報処理ができる者
4. 自ら問題を発見し、解決する力を備えている者
5. 高い倫理観とコミュニケーション能力を備えている者
6. 学士課程修了レベルの英語を修得している者

高度な専門的知識と技能を持つとともに歯科医療の変革に応じられる歯科医療人、並びに歯科衛生士や歯科技工士の専門性を生かした研究を通じて歯科医療の発展に貢献できる人材を養成して歯科医療の発展と人々の健康の増進に寄与することを目的としている。修業年限は2年、入学定員は10名である。教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定めて学生募集活動を行った結果、2024年度には8名が入学した。口腔科学専攻（修士課程）の教育課程は、基礎科目、専門科目、専門研究の3つの科目群にカリキュラムを分類するとともに7つの研究分野を設けて行われている。2024年3月の修士（口腔科学）の学位取得者数は9名であった。

#### ・口腔科学専攻（博士課程（後期））

##### ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）では、修了までに所定の単位を修得し、博士論文の審査及び試験に合格した者に博士（口腔科学）の学位を授与します。修得を必要とする能力は次のとおりです。

1. 医療保健（口腔保健学、口腔工学）における独創的な研究を自立的に立案し実践できる。
2. 他の機関と協力して研究・開発できる。
3. 医療保健（口腔保健学、口腔工学）に関する教育者や研究者を養成する指導力を持つ。

4. 教育、医療及び研究機関における管理能力を持つ。
5. 広い視野をもって教育と研究を遂行できる。

#### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）では、学生をディプロマ・ポリシーの示すレベルに到達させるために、次のカリキュラム・ポリシーを設定しています。カリキュラム・ポリシーに基づいて必要な科目を配置し、教育課程を編成、実施します。そして、レポート、プレゼンテーション及び討議への参加に重点を置いて各科目の到達度を評価するとともに、博士論文を厳正に審査します。

1. 研究指導論を学修して、口腔保健学や口腔工学に関する研究指導者としての能力を身に付ける。
2. 高度専門研究を通じて博士水準の口腔保健学や口腔工学に関する研究力を身に付ける。
3. 人材管理と組織運営を学修して、歯科衛生士や歯科技工士の教育・研究における管理者能力を養成する。
4. 企業や他分野の研究や労働衛生の学修から研究者としての素養を高める。

#### アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）が求める学生は、医療人としての倫理観を持ち、医療保健学、特に口腔保健学や口腔工学に関する教育と研究能力を持ち歯科医療の発展に貢献する強い意欲を持つ者です。上記の考えから、大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）におけるアドミッション・ポリシーを定め、次のような学生を求めます。

1. 医療保健学（口腔保健学、口腔工学）に関連する基本的な研究能力を持つ者
2. 医療保健学（口腔保健学、口腔工学）に関連する学生に対する教育ができる
3. 歯科医療の発展に貢献する強い意欲を持つ者
4. 学術研究に必要な外国語の語学力を持つ者
5. 本学大学院博士課程（後期）の履修に必要な専門的知識と技能を持つ者
6. 医療人にふさわしい倫理観を持つ者

歯科衛生士、歯科技工士に関係が深い口腔科学分野での研究能力を高めるとともに、研究指導者としての能力、併せて教育研究機関における管理能力を持つことを目標としている。修業年限は3年であり、2024年度入試では、入学定員同数の3名が入学した。教育課程は、共通科目、専門科目、研究科目の3つの科目群にカリキュラムを分類するとともに、3つの研究領域を設けて体系的に教育を行っている。2024年3月の博士（口腔科学）の学位取得者数は3名であった。

#### 7. 医療保健学部・歯科衛生士研修センター

厚生労働省による「平成30年度歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事

業実施団体公募要領」に基づき、応募し、採択され、実施団体の委託を受け、開設した大阪歯科大学歯科衛生士研修センターは、委託期間の5年間で、延べ171名の受講生を輩出した。5年間の委託の終了に伴い、2023年度からは従来の附属病院管轄から医療保健学部に移管され、医療保健学部のリカレント教育部門となり、大学独自の事業として、従来の事業（復職支援・離職防止）を継承しつつ、生涯学習を視野に入れ、更なる発展的事業展開を行うこととした。

会員登録制を導入し、これまでの「A 専門基礎研修」（12コースから選択）と、「C 臨床研修」（9診療科から選択）の研修時間を凝縮し、より学びやすくした。修了証書発行の要件は「A 専門基礎研修」6回以上及び「C 臨床研修」6日以上受講することとし、日本歯科衛生士会の第5次生涯研修制度（2）特別研修の3単位の取得が可能である。

そして新たに、一年を通じていつでも自由に研修場所として活用できるよう「B 自己学習研修」を設けた。自らが決めた研修内容に沿って、必要な器材や動画の媒体などを借用し、研修ができる。

会員登録者は88名となり、「A 専門基礎研修」は延べ84名、「C 臨床研修」は延べ28名の研修が行われた。従来行ってきた「フォローアップ研修」や「公開セミナー」は引き続き開催した。公開セミナーは「次世代に向けて求められるもの」をメインテーマとして、2023年11月23日に会場開催を行い、12月8日～12月25日の期間にはオンデマンド配信を行い、合わせて57名（会場参加25名）の受講者があった。アンケートの回答は34名であった。また、口腔内スキャナー講習会（歯科衛生士養成校教務対象）や歯科英語講座の企画も加え、受講者からは高評価を得た。

#### IV. 看護学部看護学科

##### 1. 設置の経緯・趣旨等

本学では、2020年3月「2020年度～2024年度中期計画」並びに「2020年度事業計画」が理事会・評議員会で承認された。

特に「2020年度事業計画」の中で、本学の重点項目の一つとして、「医療人育成の一翼を担ってきた本学の実績を基に、2024（令和6）年4月の看護学部（仮称）開設に向けた準備を一層加速させる。保健・医療・福祉サービスにかかわる専門職の領域を広げ、国民の健康な暮らしの実現に貢献するために、看護実践力を養うことはもとより、本学ならではの歯学部、医療保健学部との協働による多職種連携の展開や、地域住民の方々との交流を深めるなどの特色ある教育研究の実現を目指す。」との基本的な方針が明記された。

その後、看護学部開設準備委員会、理事会、評議員会での慎重な審議を経て、2022年12月に、文部科学省への看護学部（仮称）設置申請が承認された。これと同時並行的に、教育研究上の目的と養成する人材像、教育課程の編成、教員組織などの検討や、看護学部基本棟となる「楠葉西学舎」の設計と建設が進行した。

看護学部の基本コンセプトである「人とのつながり、地域とのつながりを育むキ

キャンパス」をモットーにした「楠葉西学舎」の敷地面積は、10,128.06㎡、建築面積3,117.78㎡、地上5階で、1階は、地域交流フロアとして、地域連携・実践研究センター、キャリア支援室を備え、その他レストランとカフェ、課外活動室、事務室があり、2階には、図書館等の Society5.0フロア、3階・4階は各シミュレーションルーム等の看護学実践フロア、5階は研究室のある看護学研究フロアを備えている。

そして、2023年9月4日付で、文部科学省から大阪歯科大学看護学部看護学科の設置が認可された（保健師学校、看護師学校指定は2023年9月11日付）。開設年月日は2024年4月1日、入学定員は80名（内保健師選択制10名）であり、以下の3つのポリシーを定めた。

#### 【ディプロマ・ポリシー】

本学部は、以下のディプロマ・ポリシーに基づく能力を身につけ、「大学学則」に基づく授業科目及び単位数の修得等の規定要件を満たした学生に対しては卒業を認定し、学士（看護学）を授与する。

- 看護の対象となる人々の人権を守り、多様な価値とその人らしさを尊重した態度を身に付け、行動することができる
- 看護の基礎知識・技術を身に付け、科学的根拠に基づき計画的に健康問題の解決に取り組むことができる
- あらゆる健康レベル、ライフステージにある対象の特定の健康課題に対して、自分にできる最善の看護を実践することができる
- 地域で生活する人々をとりまく環境と支援体制を把握し、保健・医療・福祉チームの一員として多職種と連携・協働し、看護活動に取り組むことができる
- 多様化する社会や健康ニーズに関心を持ち、看護を探究し、看護のプロフェSSIONナルとして自己研鑽し続けることができる

#### 【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに掲げた内容を達成するために、教育課程は、基礎科目、専門基礎科目、専門科目3科目区分から構成し、以下の方針に基づいて編成する。

本学部のカリキュラム・ポリシーは、以下のとおり定めた。

- 人間理解を深め、看護の対象を多様な文化・価値をもった生活者として捉え、人々の尊厳・人権を擁護するケア態度と対人関係形成の基本を身に付ける素地を培うため、基礎科目として、「人間探究」科目群、「言語とコミュニケーション」科目群を配置する。
- 看護の対象となる人や家族、集団、地域を多面的かつ意図的にアセスメントし、健康問題解決に適した看護技術を選択して、安全かつ効果的に、根拠に基づく計画的な看護を実践する能力を育成するために、基礎科目の「科学的思考の基盤」、専門基礎科目及び専門科目を配置する。

- 専門基礎科目は、看護の対象である人間の身体を系統的に理解し、疾病と治療に関する基礎知識及び保健医療福祉システムに関する基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能」「疾病と治療・回復」「健康支援と社会保障制度」の3つの科目群を設け、科目を配置する。
- 専門科目は、専門基礎科目の知識・技術を基盤とし、あらゆる発達段階・健康状態・生活の場にある人々を支援するための理論と援助技術を学び、ヒューマンケアリングを体現化する実践力を身につけ、看護の統合的学修を目的として、「基礎看護学」「地域・在宅看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と発展」の8つの科目群を設け、科目を配置する。
- 看護専門職として地域の特性やサービス提供のしくみを理解し、地域で療養生活する人々に対して基本的な援助ができるとともに、地域包括ケアの様々な活動の場における多職種と連携・協働する力を養うための科目を配置する。
- 看護職としてのキャリアを発展させていく意義を自覚し、自ら看護職としての能力を高め拡大していくために、将来にわたり継続的に自己研鑽を行うための基礎的能力を養うための看護キャリア形成科目を配置する。
- 保健師教育課程を履修できる選択科目を配置する。

<教育方法> 学生一人ひとりの資質及び個別の能力に応じた効果的な教育を実現するために、次の教育方法を導入する。

- 知識の理解を目的とする教育内容は、アクティブ・ラーニングやシミュレーション教育など、様々な教育方法を取り入れ、知識体系を理論的かつ統合的に学べるようにする。
- 課題や患者情報の提供などによる、グループワークやシミュレーターをはじめとする教材及び医療器機等を活用した学習環境を整備し、学修者が主体的・能動的に学べる教育方法を実践する。
- 自ら学ぶ力の醸成や能動的学修を支援するため、学内のネットワーク環境、LMS (learning management system) などの ICT 環境を提供し、学生個々の学修成果についてルーブリックを用いた形成的評価を行うための仕組みを整備する。
- きめ細やかな教育ができるよう、必要に応じて少人数グループで授業を実施する。
- あらゆる年齢、あらゆる健康状態にある対象の口腔健康管理に関する全人的な健康支援を「看護の視点」でとらえ、専門的援助ができる能力を育成するために、関連性の高い科目群において、看護と口腔健康管理の有機的連関を図る授業を実施する。

<評価方法> 公平性と透明性を確保するために、達成すべき基準をシラバスに科目ごとに定め、明示し、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価等から多面的・総合的に評価を行う。

【アドミッション・ポリシー】

看護職は、患者を中心にその家族、医療チームのメンバーをつなぎ、安全で安心な治療の支援と、あたたかなケアを実現する「要（かなめ）」となる存在である。

本学部の教育目的は、「博愛と公益」という建学の精神に基づき、予測不可能な時代にあっても、ヒューマンケアリングを基盤とし、人々の生命を守り、その人らしい生活の営みを支えるために、科学的根拠に基づいた確かな看護実践力を備え、医療チームの一員として地域の保健・医療・福祉に貢献できる探究心と自己研鑽力を身に付けた人材養成である。したがって、本学部では、当該人材養成に必要な入学生の確保に向け、多様な入試選抜方式を用意し公正かつ厳正な選考を行う。

本学部のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。

#### 【求める人物像】

- 命を大切に感じ、人をいつくしみ、人の可能性を信じ、理解するという他者との関係性の構築に前向きに取り組むことができる者
- 周囲に対する協調性や思いやりの心を持ち、相手の個性を尊重し、相手の話に耳を傾けることができる者
- 保健・医療・福祉分野に関心をもち、看護学に関する学習に意欲的に取り組むことができる者
- 専門知識修得のために最低限必要な高等学校までの基礎学力を有する者
- 将来、保健・医療・福祉の現場で看護実践家として、看護の力をもって社会に貢献する意思のある者

具体的に、以下に高等学校で修得しておくことが望ましい学修成果と水準及び基本方針を示す。

#### 【入学までに修得しておいてほしい学習成果と水準】

予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てるために、高校教育で培われた「学力の3要素」（1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）を大学教育で更なる伸長を図るため、次に掲げる知識・思考・態度などを備え、入学後の学びに主体的に取り組むことができる者が望ましい。

#### 知識・技能

- 高等学校の教育課程において、幅広く教科・科目を修得し、論理的に文章を読み解き、自分の考えを論理的に文章として書くことのできる基礎学力
- 看護の基礎となる生命現象に対する数学、理科(生物・化学)の基礎学力

#### 思考力・判断力・表現力

- 自然科学の現象について自ら調べ、論理的に考えることができる
- 他者の意見に耳を傾け、自分の考えも適切に相手に伝えることができる

### 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- 倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度
- 主体的に生徒会活動や特別活動、ボランティア活動などの課外活動に参加し、他者と協調しながら行動しようとする姿勢

### 【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜方法として、総合型選抜、特別選抜、学校推薦型選抜（指定校制・公募制）、一般選抜・前期（2教科型・3教科型特待生チャレンジ）、一般選抜・後期、大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）、というさまざまな入学者選抜方式を採用し、総合的に判断し、多様な人材を受け入れることを目指す。

- 知識・技術  
個別学力検査、調査書、志望理由書、学修計画・意欲などを確認する書類で評価する。
- 思考力・判断力・表現力  
個別学力検査、面接、志望理由書、学修計画・意欲などを確認する書類で評価する。
- 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度  
面接、調査書（課外活動）、学修計画・意欲などを確認する書類で評価する。

## 2. 学生の受け入れ

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、2023年度に合計7回のオープンキャンパスを開催した。合計7回（5月～9月まで）延べ287名が参加した。

（実施場所）楠葉学舎

第1回：5月28日（日）28名、第2回：6月18日（日）31名

第3回：7月22日（土）43名、第4回：7月23日（日）31名

第5回：8月19日（土）45名、第6回：8月20日（日）45名

第7回：9月17日（日）64名

入試広報の一環として、本年で通算2回目となる「大阪歯科大学SDGs AWARDS」（後援／読売新聞大阪本社、読売中高生新聞、Benesse（株）進研アド）を実施し、高校生を対象に懸賞論文を募集し、2024年2月に高校生21名を表彰した。

それ以外にも看護学部独自のパンフレット制作、受験雑誌、Web媒体、京阪電車交通広報の掲出、さまざまな広報を展開した。

また、一般選抜（前期3教科型）の受験生を対象とした入学者選抜成績優秀者特待生制度を設け、優秀な学生の確保につとめた。この制度で特待生に認定された者のうちA種（110万円減免）で3名、B種（55万円減免）で17名の学生が入学したことから一定の効果があったのではないかと考える。

2024年度入学者選抜区分別の志願者数は、総合型選抜で19名、ファミリー特別選抜で1名、学校推薦型選抜で65名、一般（前期・2教科型、3教科型・後期）で108名、大学共通テスト利用（前期・後期）で25名となっており合計で

218名の志願者であった。そのうち216名が受験し、171名が合格し、最終的には、開設第1期の入学者数は、定員を上回る100名（男子8名、女子92名）の入学者を確保することができた。

### 3. 学部関係組織・規程、学生生活の指針等の整備

新入生授業開始を控え、履修の方法や学生生活のためのルールを定めた諸規程の整備を行った。

- ・管理運営組織、教員組織、学則、各種委員会規程、履修規程、実習計画
- ・学生生活のルール（授業時間割、シラバス、学生生活ハンドブック等）

## V. 研究に関すること

### 1. 科学研究費の獲得に向けた取り組み

2024年度文部科学省科学研究費助成事業への申請及び採択件数の増加促進のための説明会は、新型コロナウイルス感染防止の観点から集合形式では行わず、全教員に関係資料をメールで配信し、各種問い合わせは随時対応した。

### 2. SDGs（持続可能な開発目標）関連の研究・教育の推進

本学は、楠葉学舎所在の枚方市の取り組みである「枚方市SDGs推進登録制度」に賛同（2022年8月29日付認定、枚方市所在の大学としては初）し、パンフレット『大阪歯科大学 SDGs 推進に向けて わたしたちにできることから』に掲載されている特色ある研究・教育を推進した。

### 3. 知的財産関係

本学は、「知的財産取扱規程」において、教職員等の発明及び特許等に関する取扱を規定し、本学における知的財産活動に関する事項について審議及び決定し、職務発明等の取扱に関する審査を適正かつ公正に遂行し、知的財産権の実施及び管理並びに活用について審議するために知的財産委員会と発明検討委員会を設置している。2023年度は、発明届出5件、出願審査請求の要否4件などの審査を行った。

### 4. 研究不正行為防止、公的研究費の管理について

本学は、研究に対する基本的な考え方として「大阪歯科大学における公正な科学研究の推進について」をホームページに掲載している。

研究不正行為防止に関しては文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」に基づき、毎年度チェックリストを、歯学部主任教授会及び医療保健学部教授会において確認後、同省に提出している。

公的研究費管理については、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づき、毎年度チェックリストを、歯学部主任教授会及び医療保健学部教授会において確認後、監事の確認を経て同省へ提出している。

啓発活動として「公的研究費の不正使用防止に係る啓発活動（No. 1～No. 4）」を教職員全員に対してメール配信を行い、所属長に所属部署の構成員への周知徹底を依頼した。

公的研究費採択者（分担者含む）を対象に、コンプライアンス研修を兼ねた科研費執行説明会を2023年7月31日に開催した。

2019年度より「人を対象とする医学系研究に係わる教育」として導入した一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）のeラーニングを研究倫理教育にも利用し、科研費申請の条件としている。

大学院生に対しては研究倫理の講義を受講後、APRIN eラーニングを受講することとしている。学部学生の講義においても研究倫理の内容を含む授業を行っている。また、公的研究費の取扱いに係る事務職員についてもAPRIN eラーニングを受講することとし、関係者全員が受講している。

#### 5. 組換えDNA実験に関する安全管理について

本学は、組換えDNA実験を計画し、実施する際に遵守すべき安全確保に関する基準を示し、実験の安全かつ適切な実施を図ることを目的として「組換えDNA実験安全管理規程」を制定し、組換えDNA実験に関する事項について、実験計画の法律・省令等の適合性等を調査・審議するために組換えDNA実験安全委員会を設置している。2023年度は研究計画1件の審査を行った。

また、実験従事者へ実験開始前に法律・省令及びこの規程を熟知させ、危険度に応じた微生物安全取り扱い技術等の教育訓練を行っている。2023年度は、5月23日に「組換えDNA実験安全講習会」を開催した。

#### 6. 医の倫理委員会について

本学における人を対象とする医学系研究が、世界医師会ヘルシンキ宣言、関連法規及び国の指針に基づいて適正に実施されるよう、医の倫理委員会において人を対象とする歯学・医学研究実施規則に基づき申請された研究計画の審査判定及び審議等を行っている。2023年度は64件の研究課題について審査を行い承認した。

#### 7. 動物実験委員会について

本学は、動物実験等を科学的観点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに実験等を行う教職員・学生等の安全確保の観点から適正に行うために「動物実験規程」を制定し、研究者から提出された動物実験計画の審査等を行うために動物実験委員会を設置している。2023年度は動物実験計画書93件の審査を行い、89件の学長承認が与えられた。

また、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者に対し、動物実験等の実施並びに実験動物の飼養及び保管を適切に実施するために必要な基礎知識の習得を目的として教育訓練を行っている。2023年度は、第1回として、2023年6月21日、6月28日から7月19日の間はオンライン（オンデマンド）形式で実施し、第2回として、10月19日から11月9日にオンライン（オンデマンド）形式で実施した。

## 8. 大阪歯科大学学術リポジトリの開設と教育研究業績の公開について

文部科学省が推進する学術情報の公開については、「大阪歯科大学学術リポジトリ」を立ち上げ、内容の充実に努めている（IX. 附置施設の活動35ページ参照）。

毎年度『大阪歯科大学教育研究論文目録』をまとめている。2023年度は、冊子体は作成せず、全体を学内ホームページに掲載するとともに、研究室ごとに学外向けホームページに掲載している。

## VI. 外部資金による教育研究等の進展

2023（令和5）年度の文部科学省・日本学術振興会の科学研究費を含む外部資金の獲得状況は以下のとおりであった。

### ○令和5年度科学研究費助成事業（科研費）（新規＋継続）

基盤研究（B）	3件
基盤研究（C）	41件
挑戦的研究（萌芽）	1件
若手研究	25件
研究活動スタート支援	1件
合計	71件

科研費交付額	直接経費	8,320万円
	間接経費	2,496万円
合計		1億816万円

（※ 基金分・継続課題については交付申請書に記載の額で計算）

### ○令和5年度私立大学等経常費補助金（日本私立学校振興・共済事業団）

（一般補助＋特別補助）3億725万8,000円

### ○大学等における修学の支援に関する法律による令和5事業年度授業料等減免費交付金（日本私立学校振興・共済事業団）

4,567万5,500円

### ○令和5年度臨床研修費等補助金（歯科医師）（厚生労働省）

7,329万1,000円

### ○大阪府医療機関等物価高騰対策一時支援金（大阪府）

105万円

### ○大阪府医療機関食材料費高騰対策一時支援金（大阪府）

22万4,000円

### ○大阪市医療機器等物価高騰対応支援金（大阪市）

52万5,000円

## Ⅶ. 国際交流

本学は、従来からグローバル人材の育成に積極的に取り組んでいる。オープンキャンパスにおいては、「大阪歯科大学の学生国際交流力」という小冊子を配布しており、その際に短期海外研修に参加した学生が講演を行っている。2023年4月1日現在、海外17大学と協定を締結している（学生交流を行っているのは12大学）。

- ・ 本学学部生・大学院生及び協定校を含む海外の学生がオール英語で研究発表を行う「The 6th Forum for International Students」を開催し、学生・教職員が自由に聴講することによって、教育研究活動の推進に貢献している。通算第7回目となる2023年度は、7月11日に本学（メイン会場：楠葉学舎）にて動画放映方式で開催された。

また、オレゴンヘルス&サイエンス大学との学術学生交流協定の締結、コロンビア大学歯学部、キングス・カレッジ・ロンドン歯学部への学生短期海外留学、遵義医科大学代表団の受け入れなど海外の学生及び教職員の派遣・交流が実施された。

- ・ 在籍留学生の生活相談、日本語ミニレッスンなどを随時行っている。また、「外国人留学生の手引き」「国際交流危機管理マニュアル」を配付し、きめ細かい支援を行った。

## Ⅷ. 社会連携・社会貢献

本学は、「社会連携・社会貢献の方針」を定め、教育・研究・臨床の成果を適切に社会に還元することをホームページに明示している。

- ・ 第29回大阪歯科大学公開講座

本学の恒例事業となっている公開講座は、「健康長寿を支えるからだの細菌たち～細菌を学んで長生きしましょう～」をテーマに、辨野 義己・辨野腸内フローラ研究所理事長と、梅田 誠・本学歯学部教授を講師に、本学天満橋学舎及び楠葉学舎で開催され、延べ受講者数710名であり好評を得た。

- ・ 枚方市との連携事業への参画

本学と枚方市は、今日まで学公連携を深めてきた。枚方市の審議会・委員会（環境審議会、保健所運営委員会、健康増進計画審議会）へ本学から教員を派遣し、市政運営に協力している。さらに、枚方市所在の5大学との地域連携を図るため設置されている「学園都市ひらかた推進協議会」の下記の事業にも積極的に参画した。また、枚方市民の健康増進や地域医療の充実を目指す「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」についても

運営に協力した（大阪歯科大学公開講座（楠葉学舎で開催）は、連携事業）。

[ひらまなカレッジ健康セミナー]（2023年10月18日）

枚方市立楠葉生涯学習市民センター主催であり、井関 富雄・本学歯学部教授が「シニアのお口の健康-気になる口腔がん-」をテーマに講演を行った。

[ひらかた市民大学]（2023年10月28日）

特色ある5大学の専門的な知識・情報を学べるもので、輪番制で開催された。本学は、楠葉学舎2号館・第5大講義室において、梅田 誠・本学歯学部教授が「歯周病菌コントロールで歯周と全身の健康へ」をテーマに講演を行った。

[子ども大学探検隊]（2023年10月29日）

毎年次世代を担う子どもたちに将来への夢を育むきっかけをつくる取り組みとして実施されているものである。本学は、「口の中について学ぼう！歯科大学生体験ツアー」をテーマに、枚方市内の小学生たちが、本学の学生スタッフとともに、歯に関する授業・クイズ、歯医者さんが使う材料で模型作り、歯の診断体験に挑戦した。

## IX. 附置施設の活動

### 【図書館】

本学図書館は、楠葉学舎に本館、天満橋学舎、牧野学舎に分室を置き、利用サービスの充実を図った。教育研究活動及び学生の自学自習のために必要な図書、学術雑誌、電子媒体を備えた。

<2023年度>

・蔵書冊数	141,266冊
・年間受入資料冊数	4,974冊
・年間払出資料冊数	1,854冊
・雑誌所蔵種類数（冊子体）	2,207種類
・電子ジャーナル（購入のみ）	6,115種類

楠葉学舎本館、天満橋分室において、学生・大学院生等の利便性を考え、試験期等の期間を定めて休日開館を行った。

学術情報検索データベースについては、医学中央雑誌Web版等の他に、Journal Citation Reports (JCR)、国立国会図書館デジタルコレクション等の利用が可能である。

施設・設備については、全館における毎朝の換気、アルコール消毒液、空気清浄機、アクリルボードの設置を継続実施した。

文部科学省が推進する学術情報の公開について、本学ホームページに「大阪歯科大学学術リポジトリ」を立ち上げ、学位論文内容要旨及び審査結果の要旨は学位授与後3ヶ月以内に、また、学位論文全文は、学位授与後1年以内に掲載した。

そのほか、私立大学図書館協会・阪神地区協議会・相互利用連絡会の運営幹事校として、

対外的な協会運営に参画した。

#### 【医療イノベーション研究推進機構（TRIMI）】

2021年11月に、「研究実験センター」「先進医療研究センター」「事業化研究推進センター」の3センターを擁する「医療イノベーション研究推進機構(Translational Research Institute for Medical Innovation: (TRIMI))」が発足した。2022年10月には、「事業化研究推進センター」に2部門（「データサイエンス部門」「地域医療連携部門」）を新設し、多様な研究推進への機能強化を図った。

2023年度は、研究実験センターに教育研究用器機備品として、卓上型電子顕微鏡、QuantStudio3D リアルタイム PCR システム、セクショニングモジュール等を新たに導入し、初心者向けに機器の利用説明会や動物実験実技講習会を行うことにより、教員・大学院生の研究推進に寄与した。

事業化研究推進センターでは、企業や学外の研究機関等に対して、製品化の開発支援や医療機器等の開発支援を行った。また、2022年度に三条市立大学と締結した「歯科医療関連技術の研究開発及び実用化に係る包括連携に関する協定」に基づき、開発会議を定期開催し、協同事案の検討を行った。さらに、2023年8月7日に本学と立命館大学が「学術交流協定」を締結し、その一環として、両校が「口腔・リハビリテーション・栄養コンソーシアム」を結成し、2024年3月29日に立命館大学茨木キャンパスにて設立総会を執り行った。

TRIMI各センターでの講演会・講習会等の開催状況は、次のとおりである。

#### [研究実験センター]

- ・2023年度TRIMI研究実験センター講演会

2024年1月25日 演題「研究としての人体解剖“学”」

講師：上村 守・本学解剖学講座教授

#### [先進医療研究センター]

- ・先進医療研究セミナーの開催

第4回セミナー（オンデマンド開催）

2023年4月24日 演題：「細胞培養の基礎」

講師：徳田 真季子氏（富士フィルム和光純薬（株））

第5回セミナー（オンデマンド開催）

2023年11月27日 演題：「エクソソームインハウスセミナー」

講師：舩田 祥太郎氏（富士フィルム和光純薬（株））

第6回セミナー

2024年2月8日 演題：「歯学部学生と共に人工知能をプログラミングする」

講師：河合 達志氏（愛知学院大学歯学部歯科理工学講座教授）

#### [事業化研究推進センター]

- ・メディカルイノベーション講習会

2023年6月7日 演題：「実用化・開発支援の意義について」

講師：谷城 博幸・本学事業化研究推進センター教授

- ・知的財産講習会

2023年9月28日

演題：「歯科領域における特許と大学知財に関する諸問題について」

講師：小倉 啓七氏（本学顧問弁理士）

- ・企業向け「歯科口腔領域の福祉産業・医療機器開発に関する特別シンポジウム」

2023年10月27日

講師：肥塚 浩氏（立命館大学教授・同医療介護経営研究センター長）、

谷城 博幸・本学教授 ほか

- ・企業向け公開講座「医療機器薬事開発講座2023-医療機器規制の基礎と実践-」

2023年7月～12月（全6回）

講師：谷城 博幸・本学教授 ほか

### 【教育情報センター】

本学全体におけるネットワーク機器更新・交換、ソフトウェアのバージョンアップ、既存インフラの維持及び運用管理を行った。

ODUnet（大学系システム、病院系システム）の運用管理のほか、学内ホームページには、頻繁にセキュリティ情報を発信し、利用者への注意を喚起した。

私立大学情報教育協会の会員校として、本学教員が委員会運営に参画するとともに、協会の調査研究事業等に参加し、日進月歩で変化する情報教育の状況を把握し、教育改善に資する情報提供に努めた。

2023年度は、以下のソフトウェア、ネットワーク機器について更新等を行った。

- ・マイクロソフト School Agreement 契約の更新  
（契約台数837台）
- ・ウイルス対策ソフトライセンス契約  
（トレンドマイクロ社 Apex One：契約件数1,347件）
- ・仮想化基盤サーバの更新（学術認証フェデレーションによるユーザ認証環境整備）
- ・ODUnetのDHCP化（ネットワークの情報設定の自動化）の環境整備
- ・2024年度開設の看護学部のネットワークシステムと既存のネットワーク（ODUnet）の認証システムとMicrosoft365におけるテナントを一元化し、セキュリティ強化と将来的な運用コスト削減を図った。
- ・情報リテラシー・情報モラルの向上を目指した標的型攻撃メールによる実践的トレーニングの実施
- ・ODUnetの運用管理

#### [大学系システム]

楠葉・牧野・天満橋の各学舎に敷設されたネットワークインフラの稼働状況の監視、障害対応に備えるとともに、IPアドレス並びに各種ライセンスの管理などの業務を行った。

#### [病院系システム]

病院情報システムの運用サポートを行ったほか、システムサーバの稼働状況のチェック、関連ネットワーク機器の目視巡回などの業務を行った。

## X. 教員力の向上

### 1. 教員の資質向上への取り組み

教員の資質向上への取り組みとしてのファカルティ・ディベロップメント（FD）セミナーについては、下記の内容で外部講師を招聘するなどして合計10回開催した。

#### <第1回>

- ・日程：2023年6月27日（火）17：00～
- ・会場：創立100周年記念館4階大講義室
- ・講師：昭和大学 歯学部 客員教授 片岡 竜太 先生
- ・講演内容：IPE（専門職連携教育）はじめての一步 —初年次教育を考える—

#### <第2回>

- ・日程：2023年7月7日（金）17：00～
- ・会場：創立100周年記念館4階大講義室
- ・講師：北海道医療大学 歯学部 教授 斎藤 隆史 先生
- ・講演内容：歯学系CBT問題作成について

#### <第3回>対象者のみ

- ・日程：2023年7月8日（土）9：00～16：00
- ・会場：天満橋学舎 会員研修室、共用会議室
- ・講師：北海道医療大学 歯学部 教授 斎藤 隆史 先生  
明海大学 歯学部 教授 天野 修 先生
- ・講演内容：CBT問題作成ワークショップ

#### <第4回>

- ・日程：2023年10月5日（木）17：00～
- ・会場：創立100周年記念館4階大講義室
- ・講師：関西医科大学 医学部 心理学教室 教授 西垣 悦代 先生
- ・講演内容：医療系学生のモチベーションとウェルビーイング

#### <第5回>

- ・日程：2024年1月23日（火）17：00～
- ・会場：創立100周年記念館4階大講義室
- ・講師：昭和大学 歯学部 名誉教授 片岡 竜太 先生
- ・講演内容：IPE（専門職連携教育）がはじまる - 歯学、医療保健学、看護学連携教育の準備、運営 -

### 2. 教員組織について

「教員組織の編制方針」に基づいて、教育、研究、臨床にそれぞれ活躍できる体制の充実に努めた。2023年5月1日現在の法人、歯学部、医療保健学部、附属

病院の専任教員数は、196名であり、十分な陣容を堅持している。

### 3. 教員評価について

「大阪歯科大学教員評価の実施に関する規程」に基づき、①教育活動、②研究活動、③臨床活動、④学内、社会貢献の4つの領域において、教員個々の到達目標を明確にし、役割基準評価及び卓越領域評価を実施した。この結果は、教育実践で顕著な成果をあげた教員の表彰（グッド・ティーチャー賞）や、任期制教員の再任用審査に活用している。

## XI. 附属病院の取り組み

本学附属病院では、患者の方々へ懇切丁寧な医療を提供して地域社会への貢献を図るとともに、臨床実習、臨床研修を中心とした歯科医学の教育研究を充実させることを目的として、日々の業務に取り組んでいる。そのために「病院理念」においては、「患者さまの病に共感し、あたたかい医療を提供する」ことを掲げ、さらに安全・安心な医療に努め、良質で高度な先進的医療を提供し、口腔保健の向上に努め、健康増進と長寿に貢献し、人権を尊重し、公正な医療を行い、さらに人間性豊かな、優れた医療人を育成することを基本方針として示し、これらの理念と基本方針を踏まえて2023年度も附属病院に与えられた使命を全うしてきた。2023年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症及びそれに伴う社会情勢に対応し感染対策を徹底した結果、院内クラスターを発生させることもなく、年間を通して附属病院としての機能を維持し、地域医療や臨床教育等に係る社会的貢献に寄与してきた。

### 1. 附属病院組織改革委員会の取り組み

2016年4月より理事会のもとに法人関係委員会である附属病院組織改革委員会（以下、「改革委員会」）が設置され、患者数増加や病院収支の改善を目途として取り組みを行ってきた。

改革委員会では毎月の来院患者数目標達成状況や医療収入等の病院統計に係るさまざまな資料が提示され、その内容を精査してきた。また、その結果は附属病院の全診療科長が出席する病院運営委員会において、病院長による提言等を通して周知され、経営改善のための重要な指標として示されてきた。すなわち、改革委員会での議論が最終的に附属病院にフィードバックされ、患者数増加や収支改善に寄与してきたものである。

従前の改革委員会では（1）患者数の増加、（2）診療時間の延長、（3）「診療分野教員」の増員、（4）自費診療の増加、（5）訪問・在宅診療への積極的参入、（6）新診療部門の開設等の喫緊の課題が活発に議論され、速やかな実施に向けた取り組みが行われてきたが、さらに2020年度以降は収支の改善に重点を置き、人件費や医療経費を精査した上で、診療科毎の収支状況の評価を積極的に進めた。なお、医員個人の診療収入の評価は、昇任、任期更新の評価基準になっているため、診療意欲向上にもなり附属病院の黒字化実現への一助となっている。

また、人事的には2019年10月に臨床系講座の主任教授を科長とせず、各診療科

の教授以外で診療能力が高く評価される人材を科長及び診療主任に据えるという大幅な改革を継続しており、その結果、前年度に続き、次項に示す医療収入と患者数を確保した。

## 2. 2023年度患者数・医療収入等

2023年度の開院日数は241日（土曜日診療含め291日）で、外来患者数は259,875人（昨年度254,666人）、1日平均患者数は1,052.8人（昨年度1,040.8人）で、いずれも過去最多であった2019年度実績（外来患者数：280,659人、1日平均患者数：1,165人）を下回った。

医療収入についてみると累計で30億946万6,914円となり、これは過去最高の収入を記録した前年度収入（27億6,987万7,597円）を上回る結果となった。コロナ禍で未だ患者数が減少した状況において、前年度同等以上の医療収入を示したことは病院全体の医療経営の適正化が図られていることを示唆していると考えられる。

また、矯正歯科と小児歯科で行っている土曜日診療については2023年度の累計患者数が10,383人で、前年度より5.0%増加しており、来院患者の求めに応えたより高い評価を得ているものと思われ、今後も継続していくこととしている。

## 3. 病院情報システム（電子カルテ）について

2022年度に病院情報システム更新があったが、2023年度中に更新による大きなトラブルは無く、各種要望に対応した。また、近年ランサムウェア攻撃によるシステム障害報道がある中で、各種委員会での職員への注意喚起、病院システムのセキュリティの見直しを行った。

## 4. 歯科医師の派遣、訪問歯科診療

社会福祉法人阪神福祉事業団 阪神福祉センター診療所へ医員派遣を行い、地域医療の体制確保に寄与することができた。

一方、当院では従前より国家公務員共済組合大手前病院（大阪市中央区）、及び関西電力病院（大阪市福島区）への歯科訪問診療を実施しており、入院患者の周術期口腔機能管理等の医療を提供してきた。

また訪問診療ではないが、口腔リハビリテーション科の協力のもと、大阪府下の介護老人保健施設入所者を当院外来で受入診療する取組を展開した。2023年度は42名を受入、年間約50万円の病院収入増加となった。

## 5. 歯科医師臨床研修

2023年度の研修修了者は単独型と複合型を併せて91名であり、研修歯科医を受け入れた協力型（I）臨床研修施設は46施設であった。下表に2018年度から2023年度までの当院の研修歯科医受入数の推移を示す。なお、2023年度に本事業に対して交付された臨床研修費等補助金は7329万1000円で前年度に比べ1230万円の増額となった。なお、補助金増額の主な理由は、研修歯科医が前年度に比べ16名の増員があったためである。

## 研修歯科医受入数（人）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
単独型	16	16	18	17	14	18
複合型	87	83	87	89	62	74
計	103	99	105	106	76	92

## 6. 健康セミナーについて

当院では患者だけではなく一般市民の参加も念頭に置いた健康セミナーを2017年8月からおよそ月1回の頻度で開催しており、多くの参加者から好評をいただいた。新型コロナウイルス感染状況等を考慮した上で、2023年度は、内科学講座、歯周病学講座、口腔インプラント学講座、欠損歯列補綴咬合学講座の協力を得て、4回開催した。

## 7. 病診連携講演会

病診連携講演会は、2024年3月9日に開催となり、前川賢治主任教授（欠損歯列補綴咬合学講座）を講師とし、65施設68名の参加があった。

また、医療機関からの患者紹介については、2023年度も例年同様に約2,800の医療機関から、紹介された新患者数は13,104人（前年比102%）、初診患者の紹介率は約50%に達している。このように多くの患者を紹介いただいていることを重視し、次年度以降、地域の医療機関との連携を確保するためにも本事業の実施を念頭に置いている。また、2023年に7人以上の紹介をいただいた479医療機関を評価し、謝意を表する趣旨で「医療連携施設認定証」を交付した。

## 8. 地域医療連携

地域歯科医療の中核として、2023年度も引き続き地域の歯科診療所等の先生方からのCT、MRI、歯科用コーンビームCT等の画像診断及び病理組織検査を積極的に受け入れ、近隣医療機関の支援に寄与してきた。特に関西医科大学天満橋総合クリニックからのMRI検査依頼は高額な検査故に2023年度はコロナ禍で若干の件数減があったとは言え、年間1,000万円以上の収入を得ていることも鑑み、継続して連携体制を維持していくこととしている。

## 9. 院内感染対策講習会、医療安全講習会、医薬品安全管理講習会、医療機器安全管理講習会

2023年度は下記の日程で開催し、多数の教職員の受講により当院の医療安全と院内感染対策の一助としたが、新型コロナウイルス感染症対策として、ZOOM等のネット配信、オンデマンド講習、録画済み動画の放映を実施するなど、講習会場の密を避けるため講習方法を工夫し、感染対策に万全を期してきた。

・院内感染対策講習会（カッコ内は参加者数、以下同）

2023年 4月 3日 「院内感染対策①」（100名）

「院内感染対策②」（100名）

6月 8日 「標準予防策(Standard Precautions)

- ～感染対策の基本～」（138名）
- 7月27日 「COVID-19 対策 ～五類感染症へ移行、その後～」（146名）
- 9月14日 「今年度のワクチン接種について」（83名）
- 2024年 2月26日 「標準予防策(Standard Precautions)  
～感染対策の基本～」 動画放映（75名）
- ・ 医療安全講習会
- 2023年 4月 4日 「診療用放射線安全利用研修」（93名）
- 4月 5日 「医療現場のコミュニケーション 一人一人が医院の顔」（91名）
- 4月 5日 「医療安全講習①（概論）」（92名）  
「医療安全講習②（救急蘇生）」（92名）
- 4月19日 「中央手術室オリエンテーション」（53名）
- 7月 6日 「紛争対応の基本とカルテ記載」（164名）
- 7月24日 「災害歯科保健医療体制研修会」 動画+解説（114名）
- 7月25日 「災害歯科保健医療体制研修会」 動画+解説（113名）
- 7月26日 「災害歯科保健医療体制研修会」 動画+解説（81名）
- 8月 「紛争対応の基本とカルテ記載」 オンライン（164名）
- 9月 「医療機関に迫るサイバー攻撃の対応」 オンライン（44名）
- 2024年 1月31日 「患者アンケートの結果報告」（119名）
- 2月 「診療用放射線の安全利用の研修」 オンライン（328名）
- ・ 医薬品安全管理講習会
- 2023年 4月 3日 「医療安全講習（医薬品①）」（93名）  
「医療安全講習（医薬品②）」（93名）
- 12月 7日 「周術期に注意が必要な薬剤」（117名）
- 2024年 3月 「周術期に注意が必要な薬剤」 オンライン（287名）
- ・ 医療機器安全管理講習会
- 2023年 4月 4日 「医療安全講習（医療機器①）」（92名）  
「医療安全講習（医療機器②）」（93名）
- 7月 4日 「手術用照明器（TruLight5520 無影灯）の操作説明」（9名）
- 7月10日 「ウォッシャー・ディスインフェクター AW-180の操作説明」  
（8名）
- 7月24日 「ウォッシャー・ディスインフェクター AW-180の操作説明」  
（3名）
- 9月28日 「気管支ファイバースコープ Ambu エービュー2 アソバンスの  
使用方法」（11名）
- 2024年 3月 「イオムアクア 日常点検」 オンライン（396名）
- ・ 医療ガスに係る安全管理のための職員研修
- 2023年 6月13日 「医療ガスの安全管理について  
—医療ガスのヒヤリ・ハット事例と対策—」（122名）

## XII. 施設・設備(教育研究等環境)の整備

本学では、「教育研究環境の整備の方針」を制定し、その中で「楠葉・牧野・天満橋各学舎の施設・設備を可能な限り同水準に整備するよう努める。」としている。2023年度の主な施設・設備の整備は、以下のとおり完了した。

- ・ [楠葉キャンパス]
  - 大阪歯科大学楠葉西学舎新築工事（前年度からの継続事業）
  - 3号館空調用ガス吸収式冷温水発生機更新工事
  - 2号館給湯用・空調用ボイラー更新工事
  - 1～5号館高圧ケーブル改修工事（2年計画の最終年度）
- ・ [牧野キャンパス]
  - 1～3号館給水・揚水用ポンプ更新工事
- ・ [天満橋キャンパス]【附属病院】
  - 本館熱源設備更新工事（4年目計画の最終年度）
  - 本館13階病棟系空調機ファン・コイル・ユニット更新工事
  - 本館ボイラー設備更新工事
  - 防災システム更新工事（3年計画の初年度）
  - 病院系情報コンセント増設工事

## XII. 法人・大学の管理運営

本学は、前年度に引き続き、限られた収入の中から教育・研究・臨床・社会貢献等の各活動の活性化に努めるとともに、人材育成、施設設備の整備、業務改善を進めた。

- ・ 大学基準協会の大学評価（機関別認証評価）の結果を踏まえた大学全体、学部等のレベルで自己点検・評価活動を実施するとともに、ガバナンス・コードの点検を実施し、その遵守の徹底を図った。
- ・ 教職員の資質向上を図るため、2024年2月9日に「私立学校法の改正と対応方策のポイント」と題して外部講師（大河原 遼平氏・TMI総合法律事務所弁護士）を招き、SD（スタッフ・ディベロップメント）を実施した。今回は、特に本学として初めて実施のBD（ボード・ディベロップメント）として法人役員の一部が出席した。また、教職員の勤務状態を配慮し、動画配信により受講機会の複数化を図った。

2024年1月5日には、新年互礼会を教職員全体のFD・SDとし、理事長・学長が本学の目指す重点計画（事業計画、中期計画の内容を含む）について講演した。その中では、医療系総合大学化とダブルライセンスが取得可能な教育プログラムを挙げ、SDGs達成に向けた取り組みをさらに推進することが強調された。

- ・ 教職員に対する人権意識向上の一環として、人権啓発講演会は、9月29日に「日本

のジェンダー平等はどこまで？現状と課題を考える」をテーマに、外部講師（朴 君愛氏：アジア・太平洋人権情報センター上席研究員）を招き対面で開催した。また、講演会の模様は、録画配信した。さらに、10月上旬から11月中旬にかけて「人権標語」の学内募集を行い、最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作1点を選考し、受賞作品とその受賞者氏名を学内ホームページに掲載した。

- ・ 教職員の省エネルギーへの意識を高めるため、クールビズ、ウォームビズ、省エネの日（節電、節水）等啓発活動を行い、エネルギー使用量削減と経費節減の実績の向上に努めた。

## [附属資料]

### 1. 2023 年度学生数 (2023 年 5 月 1 日現在) ( ) は女子

歯学部	第 1 学年	1 4 4	( 7 6 )	歯学研究科	第 1 学年	4 2	( 1 9 )
	第 2 学年	1 2 7	( 6 8 )		第 2 学年	3 6	( 1 6 )
	第 3 学年	1 2 2	( 5 0 )		第 3 学年	4 8	( 2 0 )
	第 4 学年	1 2 7	( 6 5 )		第 4 学年	4 0	( 1 6 )
	第 5 学年	1 2 9	( 7 3 )			1 6 6	( 7 1 )
	第 6 学年	1 3 9	( 6 8 )				
		<u>7 8 8 ( 4 0 0 )</u>					

医療保健学部	第 1 学年	口腔保健学科	8 0	( 8 0 )	口腔工学科	2 8	( 1 6 )
	第 2 学年	口腔保健学科	6 4	( 6 4 )	口腔工学科	2 2	( 1 4 )
	第 3 学年	口腔保健学科	7 0	( 7 0 )	口腔工学科	2 8	( 1 1 )
	第 4 学年	口腔保健学科	7 2	( 7 2 )	口腔工学科	2 6	( 7 )
			<u>2 8 6 ( 2 8 6 )</u>			<u>1 0 4 ( 4 8 )</u>	

#### 医療保健学研究科

修士課程	第 1 学年	7	( 6 )	博士課程 (後期)	第 1 学年	3	( 3 )
	第 2 学年	1 0	( 7 )		第 2 学年	7	( 6 )
		<u>1 7 ( 1 3 )</u>			第 3 学年	1 3	( 1 2 )
						<u>2 3 ( 2 1 )</u>	

### 2. 国家試験の結果

#### 1) 第 117 回歯科医師国家試験の結果

2024 年 3 月 15 日合格発表

	(総 数)			(新 卒)			(既 卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	184	117	63.6	71	68	95.8	113	49	43.4
全国	3,117	2,060	66.1	1,962	1,600	81.5	1,155	460	39.8

#### 2) 第 33 回歯科衛生士国家試験の結果

2024 年 3 月 26 日合格発表

	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	67	67	100.0
全国	7,950	7,346	92.4

## 3) 令和5年度歯科技工士国家試験の結果

2024年3月26日合格発表

	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	24	24	100.0
全国	835	799	95.7

## 4) 第36回社会福祉士国家試験の結果

2024年3月5日合格発表

	(総数)			(新卒)			(既卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	13	9	69.2	6	6	100.0	7	3	42.9
全国	34,539	20,050	58.1	-	-	-	-	-	-

## 3. 2024年度入学試験状況

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数※	入学者数
歯学部	学校推薦型	117	51	
	一般前期	309		
	チョイス1前期	255	178	
	チョイス2前期	243		
	一般後期	92		
	チョイス1後期	75	30	
	チョイス2後期	74		128
	共通テスト利用前期	265	35	
	共通テスト利用後期	73	17	
	プラス1前期	120	26	
	プラス1後期	33	13	
	外国人留学生	5	1	
	転入・編入前期	6	0	
	外国人留学生(2年次)	0	0	0
医療保健学部 口腔保健学科	総合型	57	47	
	推薦型	34	29	
	一般前期	13	13	
	一般後期	6	6	80
	共通テスト利用前期	7	6	
	共通テスト利用後期	2	1	
	外国人特別	1	1	
	2年次編入学者選抜	0	0	0

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数※	入学者数		
医療保健学部	口腔工学科	総合型	5	5	17	
		推薦型	2	2		
		一般前期	2	2		
		一般後期	2	2		
		共通テスト利用前期	2	2		
		共通テスト利用後期	0	0		
		外国人特別	8	8		
		ダブルディグリープログラム	0	0		0
		2年次編入学者選抜	0	0		0
看護学部	総合型	19	17	100		
	特別選抜（ファミリー推薦制）	1	1			
	学校推薦型	指定校制	12		12	
		公募制A日程	39		36	
		公募制B日程	14		11	
	一般前期	2教科型	47		37	
		3教科型	51		47	
	一般後期	10	0			
	共通テスト利用前期	23	10			
	共通テスト利用後期	2	0			
	歯学研究科	一般一次	13		11	43
一般二次		9	9			
社会人特別		10	10			
外国人留学生特別選抜		13	13			
医療保健学研究科	修士課程	第1回募集	6	4	8	
		第2回募集	3	1		
		第3回募集	2	2		
		第4回募集	1	1		
	博士課程 （後期）	第1回募集	0	0	3	
		第2回募集	2	2		
		第3回募集	1	1		
		第4回募集	0	0		

※補欠合格者含む

4. 2022年度会計実査 2023年4月4日（火）

5. 大学歯学部・大学院歯学研究科入学式 2023年4月7日（金）午前10時（於：楠葉学舎）

6. 大学医療保健学部・大学院医療保健学研究科入学式

2023年4月7日（金）午後2時（於：楠葉学舎）

7. 新入生研修 歯学部 2023年4月10日（月）、11日（火）（於：楠葉学舎）

医療保健学部 2023年4月10日（月）～13日（木）（於：牧野学舎）

8. 2022年度監事監査 2023年5月12日、15日（於：楠葉学舎）

9. オープンキャンパス

1) 歯学部

形態	日程	参加状況	実施場所
来場型	7月30日	332名	楠葉学舎
	8月27日	222名	天満橋学舎

2) 医療保健学部

形態	日程	参加状況		実施場所		
		口腔保健科	口腔工学科			
イベント 来学型	第1回	3月21日	43名	6名	牧野学舎	
	第2回	5月14日	29名	5名	牧野学舎	
	第3回	6月18日	46名	4名	牧野学舎	
	第4回	7月23日	48名	4名	牧野学舎	
	第5回※	8月10日	/		11名	天満橋学舎
	第6回	8月20日	49名	8名	牧野学舎	
総合型選抜面接対策講座		8月27日	62名	6名	牧野学舎	

※口腔工学科のみ対象

3) 看護学部（仮称）

回	日程	参加状況	実施場所
第1回	5月28日	28名	楠葉学舎
第2回	6月18日	31名	楠葉学舎
第3回	7月22日	43名	楠葉学舎
第4回	7月23日	31名	楠葉学舎
第5回	8月19日	45名	楠葉学舎
第6回	8月20日	45名	楠葉学舎
第7回	9月17日	64名	楠葉学舎

10. 大学父兄会・共済会総会（於：楠葉学舎）

2023年6月24日（土）午後1時 総会出席者数226名、個別懇談会出席者数270名

11. 立命館大学と「学術交流協定」を締結（協定式 8 月 7 日）  
（主な目的：次世代の医療及び介護に係る製品開発に関する共同研究などの推進）
12. 第 55 回全日本歯科学学生総合体育大会 2023 年 7 月 31 日（月）～ 8 月 13 日（日）
13. 2023 年度 F D セミナー（本文参照）
14. 2023 年度 S D セミナー（本文参照）
15. 第 29 回大阪歯科大学公開講座
  - ・メインテーマ  
「健康長寿を支えるからだの細菌たち～細菌を学んで長生きしましょう～」
  - ・日程 天満橋講座 2023 年 9 月 2 日（土）、9 日（土）午前 10 時～正午  
受講者延べ 250 名（於：100 周年記念館）  
枚方講座 2024 年 1 月 20 日（土）、27 日（土）午後 1～3 時  
受講者延べ 460 名（於：楠葉学舎）
16. 2023 年度人権講演会  
2023 年 9 月 29 日（於：100 周年記念館）（10 月 16 日～11 月 15 日 Web 配信）  
テーマ「日本のジェンダー平等はどこまで？ 現状と課題を考える」  
講師：ヒューライツ大阪 上席研究員 朴 君愛 先生
17. キングス・カレッジ・ロンドン歯学部長 表敬訪問・特別講演（10 月 10 日（火））
18. 第 5・6 学年父兄会 2023 年 10 月 15 日（日）（於：100 周年記念館） 101 名出席
19. 2023 年度楠葉祭  
2023 年 10 月 28 日（土）、29 日（日）（於：楠葉学舎） ※4 年ぶりの対面開催
20. 2023 年度解剖体慰霊祭 2023 年 11 月 10 日（金）午後 2 時（於：四天王寺）
21. 実験動物慰霊祭  
2023 年 11 月 22 日（水）～29 日（火）、焼香台を楠葉学舎 3 号館 1 階ゼミナール室に設置
22. 2023 年度防災・防火訓練
 

牧野学舎	2023 年 11 月 29 日
天満橋学舎	2024 年 3 月 1 日

※楠葉学舎では「教養型防災訓練」を実施（2023 年 11～12 月）  
※天満橋学舎では「教養型防災訓練」も合わせて実施（2023 年 9 月）

23. 共用試験 2023 歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験
  - ・臨床実地試験 2023 年 11 月 14 日 (医療系大学間共用試験実施評価機構派遣監督者視察日)
  - ・一斉技能試験 2023 年 12 月 16 日
  
24. 2023 年全学教職員忘年慰労会 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
  
25. 2024 年新年互礼会 2024 年 1 月 5 日 (於：楠葉学舎)
  
26. 2023 年度共用試験歯学系 CBT 並びに OSCE
  - ・CBT 2024 年 2 月 9 日 (金) 午前 9 時 30 分 (於：楠葉学舎)
  - ・OSCE 2024 年 2 月 18 日 (日) 午前 9 時 (於：天満橋学舎)
  
27. 第 2 回「大阪歯科大学 SDGs AWARDS」あなたとわたしの「つながりごはん」  
エッセーコンテスト開催 (2024 年 2 月 10 日 (土)、会場：楠葉学舎講堂)
  
28. 2023 年度大学歯学部卒業式並びに大学院歯学研究科学位認証式  
2024 年 3 月 1 日 (金) 午前 10 時 (於：楠葉学舎)
  
29. 2023 年度大学医療保健学部卒業式並びに大学院医療保健学研究科学位認証式  
2024 年 3 月 8 日 (金) 午前 10 時 (於：楠葉学舎)
  
30. 大阪歯科大学楠葉西学舎 (看護学部) 竣工式 (2024 年 3 月 25 日)
  
31. 2023 年度歯科医師臨床研修修了証授与式 2024 年 3 月 26 日 (於：天満橋学舎)
  
32. 立命館大学と「口腔・リハビリテーション・栄養コンソーシアム設立総会」を開催  
(2024 年 3 月 29 日)
  
33. 特待生の採用
  - ・歯学部 2 年から 6 年の各学年 3 名、計 15 名に対し授業料各 100 万円免除
  - ・医療保健学部
    - 口腔保健学科 第 1 学年 2 名、第 2 学年 1 名、第 4 学年 1 名
    - 口腔工学科 第 3 学年 1 名、第 4 学年 1 名の計 6 名に対し授業料等合計 567 万円免除
  
34. 大学学内奨学生選考 3 名の学生に対して総額 2,000,000 円の奨学金を貸与
  
35. 2024 年度研修歯科医の募集定員 プログラム S (単独型) 20 名、プログラム C (複合型) 120 名

36. 学位授与

1) 博士 (歯学)

学位記番号 甲第 971 号～1010 号 40 名に学位記授与

学位記番号 乙第 1653 号～1667 号 15 名に学位記授与

2) 博士 (口腔科学)

学位記番号 甲第 6 号～ 8 号 3 名に学位記授与

3) 修士 (口腔科学)

学位記番号 第 36 号～44 号 9 名に学位記授与

37. 歯学研究科大学院生が学術大会ポスター発表優秀賞を受賞 (7 月 8 日)

・歯学研究科 3 年 山根 款 / 第 36 回日本顎関節学会総会・学術大会

38. 2023 年度法人理事会・法人評議員会・歯学部主任教授会・歯学部教授会・医療保健学部教授会・  
歯学研究科会議・医療保健学研究科会議

1) 法人理事会 14 回開催

(2023 年 4 月 27 日、5 月 25 日、6 月 29 日、7 月 27 日、8 月 24 日、9 月 28 日(2 回)、  
10 月 26 日、11 月 30 日、12 月 28 日、2024 年 1 月 25 日、2 月 29 日、3 月 28 日(2 回))

2) 法人評議員会 3 回開催

(2023 年 5 月 25 日、9 月 28 日、2024 年 3 月 28 日)

3) 歯学部主任教授会 21 回開催

(2023 年 4 月 12 日、5 月 10 日、5 月 24 日、6 月 14 日、7 月 12 日、7 月 26 日、8 月 9 日、  
8 月 16 日、9 月 13 日、9 月 22 日、10 月 11 日、11 月 8 日、11 月 15 日、12 月 1 日、  
12 月 13 日、12 月 25 日、2024 年 1 月 12 日、2 月 14 日、3 月 8 日、3 月 13 日、3 月 27 日)

4) 歯学部教授会 2 回開催

(2023 年 4 月 12 日、2024 年 3 月 27 日)

5) 医療保健学部教授会 16 回開催

(2023 年 4 月 19 日、5 月 17 日、6 月 21 日、7 月 19 日、8 月 16 日、9 月 20 日、10 月 18 日、  
10 月 30 日、11 月 15 日、11 月 29 日、12 月 20 日、2024 年 1 月 17 日、2 月 16 日、2 月 21 日、  
3 月 22 日(2 回))

6) 歯学研究科会議 15 回開催

(2023 年 4 月 26 日、5 月 24 日、6 月 28 日、7 月 26 日、8 月 23 日、9 月 27 日、10 月 11 日、  
10 月 25 日、11 月 8 日、11 月 22 日、12 月 27 日、2024 年 1 月 24 日、2 月 14 日、2 月 28 日、  
3 月 27 日)

7) 医療保健学研究科会議 12 回開催

(2023 年 4 月 19 日、5 月 17 日、6 月 21 日、7 月 19 日、8 月 16 日、9 月 20 日、10 月 18 日、  
11 月 15 日、12 月 20 日、2024 年 1 月 17 日、2 月 21 日、3 月 22 日)

39. 令和 5 年の叙勲受章者 (本学関係)

大阪歯科大学名誉教授 豊田 紘 奈良県 旭日中綬章 共 16 名

40. 教職員数（2023年5月1日現在：380名）

1) 教員数 196名

学長 1名

歯学部 155名

主任教授 26名、専任教授 11名、准教授 14名、講師 42名、助教 62名

医療保健学部 29名

教授 8名、准教授 2名、講師 8名、助教 4名、助手 6名

附属病院 11名

専任教授 3名、准教授 2名、講師 5名、助教 1名

歯科衛生士研修センター 1名

准教授 1名

2) 職員数 184名

事務・技術 94名、医療 89名、労務 1名

41. 人事

1. 法人関係

1) 理事就任

教学担当 藤原 真一（任期：2023年4月1日～2026年3月31日）

中尾 昌彦（任期：2024年3月28日～2026年4月2日）

2) 理事業務分担

財務兼調査担当 古川 壽男（2023年4月27日付）

3) 理事・評議員死亡退任 下村 錢三郎（2023年11月29日付）

4) 評議員就任

井関 富雄（2023年4月27日付）、中尾 昌彦（2023年12月28日付）

5) 評議員退任 松本 尚之、井関 富雄（2024年3月31日付）

6) 理事長・学長補佐就任 方 一如（2023年4月1日付）

2. 退職

1) 定年退職 口腔外科学第一講座 主任教授 井関 富雄 共8名

2) 依願退職 歯科医療管理学室 専任教授 田中 武昌 共16名

3) 任期満了退職 歯科医学教育開発センター 特任教授 松本 秀範 共5名

4) 定年退職後再雇用満了退職 附属病院 歯科技工士 林 美己

3. 昇任

1) 歯学部専任教授 有歯補綴咬合学講座 准教授 田中 順子 共2名

2) 歯学部准教授 数学教室 講師 森 淳秀 共5名

3) 歯学部講師 生物学教室 助教 平井 悠哉 共4名

4) 医療保健学部講師 口腔保健学科 助教 大西 愛 共2名

5) 医療保健学部助教 口腔保健学科 助手 大森 あかね

6) 職員 大学管理部 次長 吉村 里美 共14名

#### 4. 任用

- 1) 歯学部専任教授 医療イノベーション研究推進機構 博士(医学) 田村 恵子
  - 2) 医療保健学部教授 口腔保健学科 博士(歯学) 島田 明子
  - 3) 歯学部講師 生理学講座 博士(医学) 寒川 延子 共2名
  - 4) 医療保健学部講師 口腔保健学科 社会福祉士 高井 裕二
  - 5) 歯学部助教 歯科矯正学講座 博士(歯学) 陳 麗吉 共11名
  - 6) 医療保健学部助手 口腔保健学科 歯科衛生士 宮坂 佳代 共4名
  - 7) 大学院歯学研究科教員 大学院助教 吉川 雅朗 共3名
  - 8) 大学院医療保健学研究科修士課程教員  
大学院教授 今井 弘一 共2名、大学院助教 樋口 鎮央
  - 9) 大学院医療保健学研究科博士課程(後期)教員  
大学院教授 島田 明子、学院助教 樋口 鎮央
  - 10) 看護師 附属病院 桑畑 凜花 共3名
  - 11) 歯科衛生士 附属病院 山本 菜月 共2名
  - 12) 歯科技工士 附属病院 駒居 汰一
  - 13) 任期付職員の専任職員登用 アドミッションセンター 課長 畠山 宏史 共21名
  - 14) 任期付職員新規採用 人事課 主任 中西 晋哉 共9名
5. 歯学部任期制教員任期更新 内科学講座 主任教授 志水 秀郎 共17名
6. 医療保健学部任期制教員任期更新 口腔保健学科 教授 元根 正晴 共3名
7. 所属異動  
医療イノベーション研究推進機構先進医療研究センター 准教授 吉川 一志 共13名
8. 兼務 大学管理部、国際交流事業部 部長 松村 誠一 共5名
9. 定年退職後再雇用 医療保健学部事務室 部長 東 真一郎 共4名
10. 委嘱
- 1) 大学役職者

副学長、大学院医療保健学研究科科長	今井 弘一
医療保健学部学部長	川添 堯彬
図書館長	辻林 徹
教育情報センター所長	山本 景一
教育情報センター副所長	南部 隆之
口腔保健学科学科長	神 光一郎
口腔工学科学科長	柿本 和俊
  - 2) 歯学部特任教授 病理学室 田中 昭男 共7名
  - 3) 医療保健学部特任教授 医療保健学部 方 一如 共2名
  - 4) 看護学部(仮称)開設準備室特任准教授 高尾 憲司 共2名
  - 5) 歯学部特任講師 口腔治療学講座 西川 郁夫 共2名
  - 6) 名誉客員教授 岡山大学 名誉教授 山下 敦

- 7) 歯学部客員教授 近畿大学 名誉教授 本津 茂樹 共 16 名  
 8) 医療保健学部客員教授 兵庫医科大学 主任教授 岸本 裕光 共 2 名  
 9) 歯学部客員准教授 口腔治療学講座 好川 正孝  
 10) Visiting Professor 韓国慶熙大学校歯科大学 主任教授 Young-Guk Park 共 7 名  
 11) 2023 年度歯学部講師 (非常勤) 403 名  
     2023 年度医療保健学部講師 (非常勤) 等 115 名  
     2023 年度医療保健学研究科 (修士課程) 講師 (非常勤) 20 名  
     2023 年度医療保健学研究科博士課程 (後期) 講師 (非常勤) 10 名  
 12) 診療科科長 保存修復科 岩田 有弘 共 19 名  
 13) 診療科主任 保存修復科 横田 啓太 共 16 名  
 14) 臨床教授 なかじま歯科医院 院長 中島 康 共 2 名  
 15) 医員等 48 名  
 16) 病院医員 62 名  
 17) 大学院医員 86 名  
 18) ティーチング・アシスタント 歯科矯正学 大学院 2 年 新谷 真奈 共 27 名  
 19) ポストドクトラルフェロー 歯周病学 博士 (歯学) 李 潤伯  
 20) 各種委員会委員長

(1) 医療保健学部、医療保健学研究科関係

入試委員会	委員長	柿本 和俊
教務部委員会	委員長	神 光一郎
カリキュラム委員会	委員長	柿本 和俊
学生部委員会	委員長	橋本 正則
学生支援小委員会	委員長	元根 正晴
キャリア支援委員会	委員長	中塚美智子
生涯学習委員会	委員長	糸田 昌隆
臨地・臨床実習評価委員会	委員長	神 光一郎
大学院委員会	委員長	今井 弘一
学友会	会長	神 光一郎

(2) 法人関係

環境管理委員会	委員長	山本 一世
枚方資料センター管理運営委員会	委員長	下村錢三郎 (2023 年 4 月 1 日付)

21) 歯学部学年指導教授

1 年 藤原 眞一、2 年 富永 和也、3 年 合田 征司、4 年 小野 圭昭  
 5 年 前田 博史、6 年 三宅達郎、前川賢治

42. 国際交流 (本文参照)

#### 43. 補助金等

- 1) 2023 年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金交付 (13 件) 2,500,000 円
- 2) 2023 年度科学研究費補助金交付 (文部科学省) (本文参照)
- 3) 令和 5 年度私立大学等経常費補助金交付 (本文参照)
- 4) 大学等における修学の支援に関する法律による令和 5 事業年度授業料等減免費交付  
45,675,500 円
- 5) 大阪府医療機関等物価高騰対策一時支援金交付 (2 回交付) 1,050,000 円
- 6) 大阪市医療機関等物価高騰対応支援金交付額 525,000 円
- 7) 令和 5 年度臨床研修費等補助金交付 73,291,000 円
- 8) オンライン資格確認端末機に係る補助金交付額 2,332,000 円
- 9) 大阪府医療機関食材料費高騰対策一時支援金 224,000 円
- 10) 寄贈  
大阪歯科大学第 40 回卒業生 (歯恩会) から一般寄附として (300,000 円) 共 3 件

#### 44. 諸規程等

- 1) 大阪歯科大学歯学部奨学金貸与規程 (一部改正)
- 2) 臨床実習委員会規程 (一部改正)
- 3) 大阪歯科大学歯学部における勉学とクラブ活動に関する内規 (一部改正)
- 4) 大阪歯科大学医療保健学部歯科衛生士研修センター規程 (施行)
- 5) 学校法人大阪歯科大学定年退職者の再雇用に関する規則 (一部改正)
- 6) 大阪歯科大学附属病院病院医員報奨金に関する規程 (一部改正)
- 7) 学校法人大阪歯科大学経理規程 (一部改正)
- 8) 学校法人大阪歯科大学安否確認システム管理運営要綱 (施行)
- 9) 大阪歯科大学附属病院規程 (一部改正)
- 10) 医療保険院内情報委員会規程 (施行)
- 11) 大阪歯科大学附属病院病院情報システム管理運用規程 (一部改正)
- 12) 病院情報システムが保有する情報の電子媒体による持ち出しに関する要項 (施行)  
(以上 2023 年 4 月 1 日付)
- 13) 学校法人大阪歯科大学教員の任期に関する規程 (一部改正)  
(2023 年 4 月 1 日付) (2023 年 12 月 28 日付) (2024 年 2 月 29 日付)
- 14) 任期制教員の再任用基準に関する申し合わせ (一部改正)  
(2023 年 4 月 1 日付) (2023 年 7 月 27 日付) (2024 年 1 月 25 日付)
- 15) 教員の昇任資格審査に関する申し合わせ (一部改正)  
(2023 年 4 月 1 日付) (2023 年 8 月 24 日付)
- 16) 大阪歯科大学医療保健学部履修規程 (一部改正) (2023 年 4 月 1 日付) (2023 年 9 月 28 日付)
- 17) 大阪歯科大学附属病院病院医員就業規則 (一部改正)  
(2023 年 4 月 1 日付) (2023 年 10 月 26 日付) (2023 年 11 月 30 日付)

- 18) 学校法人大阪歯科大学契約職員就業規則（一部改正）  
(2023年4月1日付) (2023年11月30日付) (2024年2月29日付)
- 19) 大阪歯科大学学費等納付金規程（一部改正）  
(2023年4月27日付) (2023年7月27日付) (2023年11月1日付)
- 20) 大阪歯科大学教育情報センター楠葉西学舎（看護学部）分室事務取扱内規（施行）
- 21) 大阪歯科大学新入学特待生に関する内規（一部改正）
- 22) 大学院医療保健学研究科教員の資格条件に関する申し合わせ（施行）  
(以上 2023年6月29日付)
- 23) 大阪歯科大学知的財産取扱規程（一部改正）
- 24) 知的財産に関する申し合わせ（一部改正）
- 25) 大阪歯科大学歯学部学業成績評価に関する規程（一部改正）
- 26) 歯学部特待生に関する内規（一部改正）
- 27) 学校法人大阪歯科大学介護休業等規程（一部改正） (以上 2023年7月27日付)
- 28) 大阪歯科大学学長候補者選考規程（一部改正）
- 29) 大阪歯科大学動物実験規程（一部改正）
- 30) 学校法人大阪歯科大学テレワーク細則（施行）
- 31) 通勤手当支給内規（一部改正） (以上 2023年8月24日付)
- 32) 学校法人大阪歯科大学寄附行為（一部改正） (2023年9月4日付)
- 33) 学校法人大阪歯科大学寄附行為施行細則（一部改正） (2023年9月28日付)
- 34) 学校法人大阪歯科大学給与規程（一部改正）  
(2023年9月28日付) (2023年10月26日付) (2023年12月1日付)
- 35) 大阪歯科大学附属病院大学院医員就業規則（一部改正）  
(2023年9月28日付) (2023年11月30日付)
- 36) 学校法人大阪歯科大学教員の定員等に関する規程（一部改正）  
(2023年9月28日付) (2024年1月25日付)
- 37) 大阪歯科大学附属病院BCP（事業継続計画）部会規程（施行） (2023年10月26日付)
- 38) 参事及び副参事登用規程（廃止） (2023年10月31日付)
- 39) 学校法人大阪歯科大学事務組織及び事務分掌規程（一部改正）  
(2023年11月1日付) (2023年11月30日付)
- 40) 大阪歯科大学ヒトES細胞の使用に関する規程（一部改正）
- 41) 大阪歯科大学臨床研究利益相反検討委員会規程（一部改正）
- 42) 大阪歯科大学人を対象とする歯学・医学研究実施規則（一部改正）
- 43) 学校法人大阪歯科大学任期付職員就業規則（一部改正）
- 44) 大阪歯科大学附属病院研修歯科医就業規則（一部改正）
- 45) 学校法人大阪歯科大学医員就業規則（一部改正）
- 46) 学校法人大阪歯科大学講師（非常勤）就業規則（一部改正）
- 47) 学校法人大阪歯科大学教職員赴任旅費規程（施行） (以上 2023年11月30日付)
- 48) 学校法人大阪歯科大学就業規則（一部改正） (2023年11月30日付) (2024年2月29日付)
- 49) 学校法人大阪歯科大学管理運営規則（一部改正）
- 50) 大阪歯科大学情報セキュリティポリシー（一部改正）

- 51) 大阪歯科大学ネットワーク利用細則（一部改正）
- 52) 大阪歯科大学ソフトウェア管理規程（一部改正）（以上 2023 年 12 月 1 日付）
- 53) 大阪歯科大学教育情報センター規程（一部改正）（2023 年 5 月 1 日付）（2023 年 12 月 1 日付）
- 54) ハラスメントの防止等に関する規程（一部改正）
- 55) 大阪歯科大学医療保健学部歯科衛生士研修センター施設使用規程（施行）  
（以上 2023 年 12 月 28 日付）
- 56) 教員候補者の新規任用資格審査に関する申し合わせ（一部改正）
- 57) 大阪歯科大学教員任用規程（一部改正）（以上 2024 年 1 月 25 日付）
- 58) 大阪歯科大学大学院看護学研究科開設準備室規程（2024 年 3 月 28 日付）

## 第2部 財務状況の概要

### 令和5年度（2023年度）財務状況の概要

#### 1. 決算概要

##### （1）資金収支計算書

収入項目では、学生生徒等納付金収入が増加する一方、寄付金収入、及び補助金収入が減少しましたが、付随事業・収益事業収入が医療収入を中心に前年度比大幅に増加しました。

一方、支出項目では新学舎建設等の大型設備投資による施設・設備関係支出を中心に増加しました。

翌年度繰越支払資金は前年度比177,897千円増加し4,191,027千円となりました。

#### 令和5年度 資金収支計算書

（単位：千円）

科 目	令和5年度		令和4年度 決算	令和4年度 決算との差異
	予算	決算		
学生生徒等納付金収入	4,876,690	4,806,207	4,784,947	21,260
手数料収入	47,871	50,542	43,892	6,650
寄付金収入	50,316	48,502	60,646	△ 12,144
補助金収入	454,734	428,818	527,578	△ 98,760
付随事業・収益事業収入	2,796,419	3,086,427	2,836,431	249,996
受取利息・配当金収入	34,038	38,879	33,515	5,364
雑収入	373,086	346,245	366,706	△ 20,461
前受金収入	522,630	641,017	535,400	105,617
その他の収入	5,724,525	5,784,680	9,955,404	△ 4,170,724
資金収入調整金勘定	△ 1,120,927	△ 1,154,458	△ 1,157,145	2,687
前年度繰越支払資金	4,013,130	4,013,130	4,118,777	△ 105,647
<b>収入の部合計</b>	<b>17,772,512</b>	<b>18,089,993</b>	<b>22,106,154</b>	<b>△ 4,016,161</b>
人件費支出	4,736,806	4,660,875	4,521,707	139,168
教育研究経費支出	2,846,285	2,809,468	2,523,261	286,207
管理経費支出	594,787	551,956	575,338	△ 23,382
施設関係支出	4,039,896	3,981,855	2,118,460	1,863,395
設備関係支出	1,189,627	1,053,581	879,774	173,807
資産運用支出	926,804	840,768	7,451,164	△ 6,610,396
その他の支出	533,713	551,079	564,094	△ 13,015
資金支出調整勘定	△ 527,133	△ 550,619	△ 540,775	△ 9,844
翌年度繰越支払資金	3,346,555	4,191,027	4,013,130	177,897
<b>支出の部合計</b>	<b>17,772,512</b>	<b>18,089,993</b>	<b>22,106,154</b>	<b>△ 4,016,161</b>

## (2) 活動区分資金収支計算書

教育活動資金収支差額は、教育活動資金収入、教育活動資金支出ともに増加した結果、852,886千円の資金増となりました。

一方、施設整備等活動資金収支差額が大型設備投資により615,927千円減少し、その他の活動による資金収支も59,061千円減少しました。

この結果、支払資金は177,897千円増加しました。

### 令和5年度 活動区分資金収支計算書

(単位：千円)

科 目	令和5年度	令和4年度	差 異
教育活動資金収入計	8,766,744	8,566,807	199,937
学生生徒等納付金収入	4,806,207	4,784,947	21,260
経常費等補助金収入	428,818	474,183	△ 45,365
医療収入	3,009,466	2,769,877	239,589
教育活動資金支出計	8,022,300	7,620,307	401,993
人件費支出	4,660,875	4,521,707	139,168
教育研究経費支出	2,149,023	1,904,432	244,591
医療経費支出	660,444	618,829	41,615
管理経費支出	551,956	575,338	△ 23,382
差引	744,443	946,500	△ 202,057
調整勘定等	108,443	△ 50,325	158,768
<b>教育活動資金収支差額</b>	<b>852,886</b>	<b>896,175</b>	<b>△ 43,289</b>
施設整備等活動資金収入計	4,623,820	2,379,575	2,244,245
施設整備等活動資金支出計	5,260,892	9,770,462	△ 4,509,570
差引	△ 637,072	△ 7,390,887	6,753,815
調整勘定等	21,144	△ 40,484	61,628
<b>施設整備等活動資金収支差額</b>	<b>△ 615,927</b>	<b>△ 7,431,371</b>	<b>6,815,444</b>
その他の活動資金収入計	565,012	7,109,183	△ 6,544,171
受取利息・配当金収入	38,879	33,515	5,364
その他の活動資金支出計	624,370	679,634	△ 55,264
差引	△ 59,358	6,429,549	△ 6,488,907
調整勘定等	297	0	297
<b>その他の活動資金収支差額</b>	<b>△ 59,061</b>	<b>6,429,549</b>	<b>△ 6,488,610</b>
<b>支払資金の増減額</b>	<b>177,897</b>	<b>△ 105,647</b>	<b>283,544</b>
<b>前年度繰越支払資金</b>	<b>4,013,130</b>	<b>4,118,777</b>	<b>△ 105,647</b>
<b>翌年度繰越支払資金</b>	<b>4,191,027</b>	<b>4,013,130</b>	<b>△ 105,647</b>

(3) 事業活動収支計算書

経常収支差額は、教育活動収支差額に加え教育活動外収支差額も黒字を確保したため、87,250千円の黒字を計上しましたが、看護学部の新設費用等により、前年度比279,682千円の減益となりました。

令和5年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目	令和5年度		令和4年度 決算	令和4年度 決算との差異
	予算	決算		
<b>教育活動収入計</b>	<b>8,599,116</b>	<b>8,769,033</b>	<b>8,568,637</b>	<b>200,396</b>
学生生徒等納付金	4,876,690	4,806,207	4,784,947	21,260
経常費等補助金	454,734	428,818	474,183	△ 45,365
付随事業収入	2,796,419	3,086,427	2,836,431	249,996
雑収入	373,086	347,943	368,460	△ 20,517
<b>教育活動支出計</b>	<b>8,844,103</b>	<b>8,720,661</b>	<b>8,235,220</b>	<b>485,441</b>
人件費	4,600,090	4,583,234	4,415,666	167,568
教育研究経費	3,549,523	3,488,903	3,152,325	336,578
管理経費	694,489	648,438	667,132	△ 18,694
<b>教育活動収支差額</b>	<b>△ 244,987</b>	<b>48,371</b>	<b>333,416</b>	<b>△ 285,045</b>
<b>教育活動外収入計</b>	<b>34,038</b>	<b>38,879</b>	<b>33,515</b>	<b>5,364</b>
受取利息・配当金	34,038	38,879	33,515	5,364
<b>教育活動外支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>教育活動外収支差額</b>	<b>34,038</b>	<b>38,879</b>	<b>33,515</b>	<b>5,364</b>
<b>経常収支差額</b>	<b>△ 210,949</b>	<b>87,250</b>	<b>366,932</b>	<b>△ 279,682</b>
特別収入計	22,296	19,565	74,570	△ 55,005
特別支出計	0	15,439	70,748	△ 55,309
<b>特別収支差額</b>	<b>22,296</b>	<b>4,125</b>	<b>3,822</b>	<b>303</b>
<b>基本金組入前当年度収支差額</b>	<b>△ 355,005</b>	<b>91,376</b>	<b>370,755</b>	<b>△ 279,379</b>
基本金組入額合計	△ 494,685	△ 278,783	△ 7,135,457	6,856,674
<b>当年度収支差額</b>	<b>△ 849,690</b>	<b>△ 187,406</b>	<b>△ 6,764,702</b>	<b>6,577,296</b>
前年度繰越収支差額	△ 19,776,710	△ 19,776,710	△ 19,312,008	△ 464,702
基本金取崩額	0	0	6,300,000	△ 6,300,000
<b>翌年度繰越収支差額</b>	<b>△ 20,626,400</b>	<b>△ 19,964,117</b>	<b>△ 19,776,710</b>	<b>△ 187,407</b>
事業活動収入計	8,655,450	8,827,477	8,676,724	150,753
事業活動支出計	9,010,455	8,736,101	8,305,968	430,133

#### (4) 貸借対照表

資産の部は、有形固定資産が新学舎建設等により4,294,312千円増加する一方、特定資産が4,278,728千円減少し、流動資産が159,425千円増加したため、前年度比138,991千円増加しました。

純資産は、前年度比91,376千円増加し54,923,686千円となりました。純資産が負債及び純資産の部合計に占める割合である純資産構成比率は91.7%となりました。

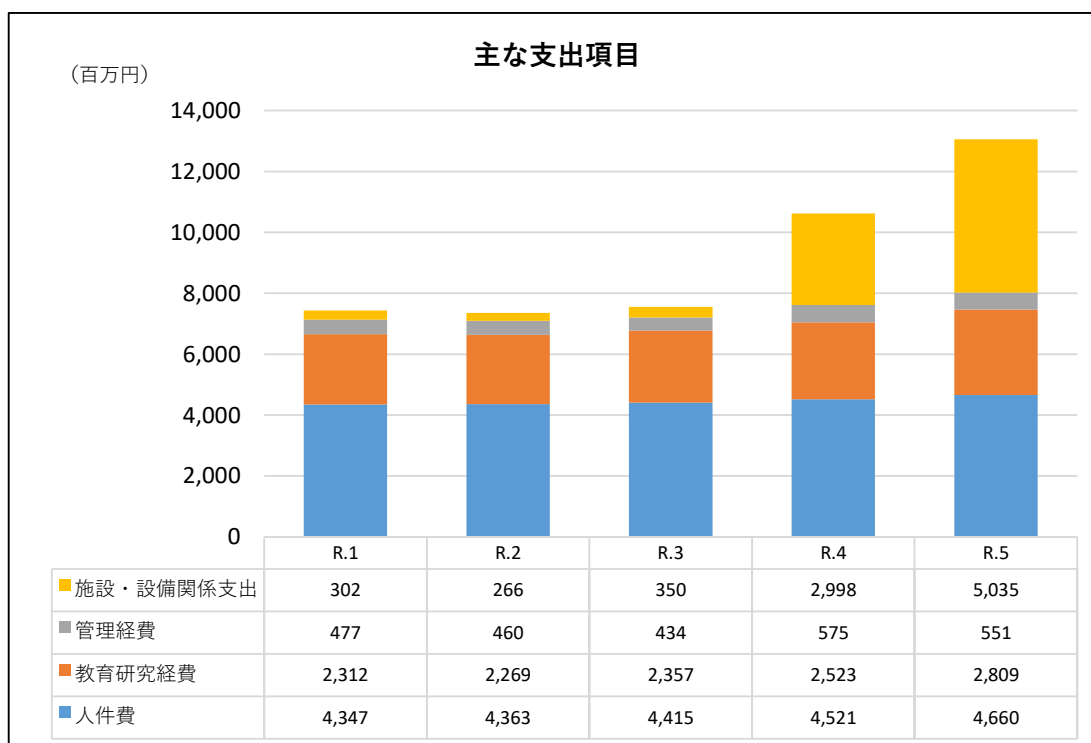
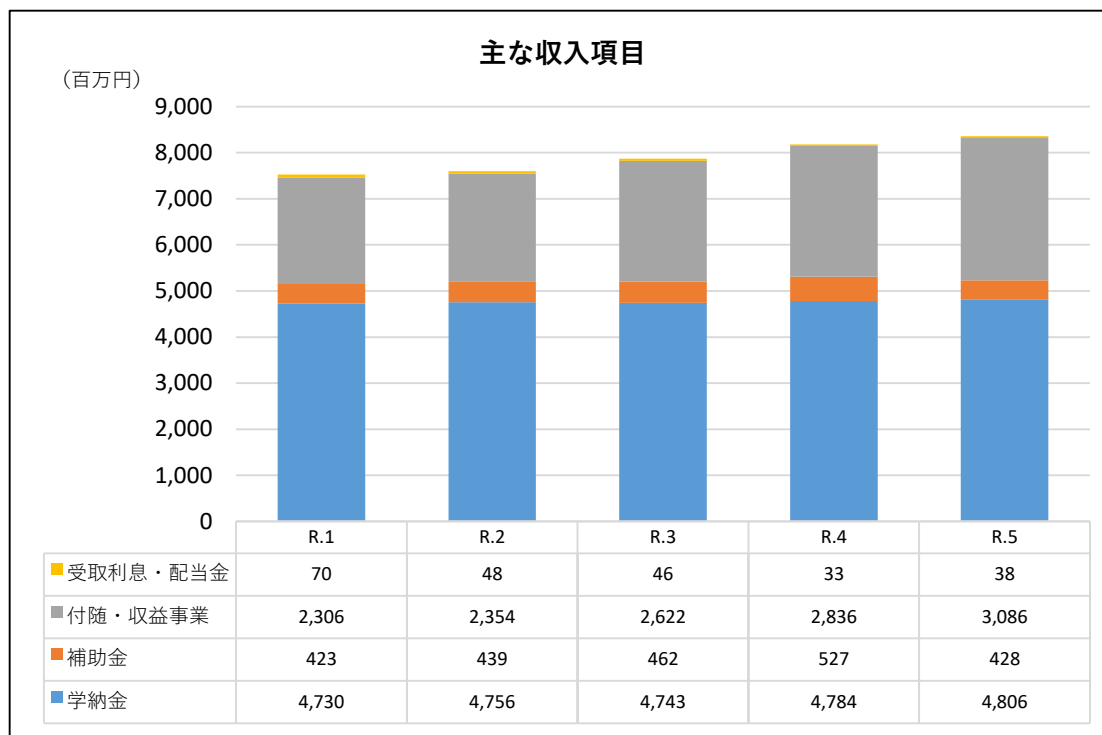
#### 令和5年度末 貸借対照表

(単位：千円)

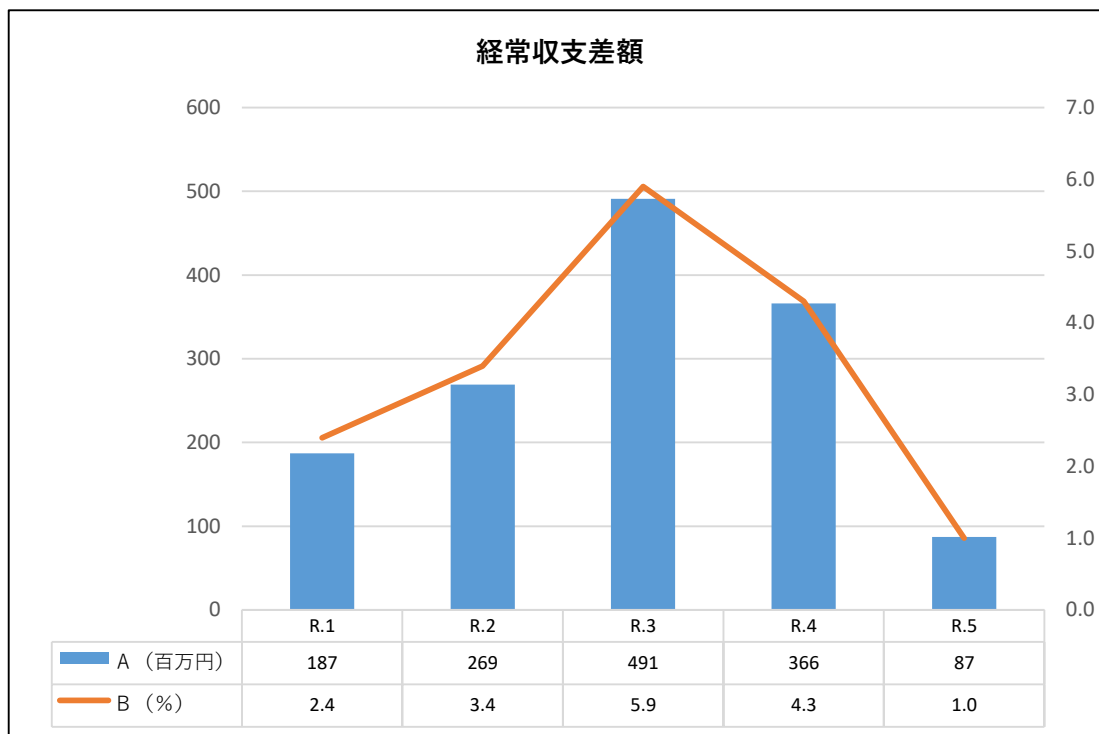
科 目	令和5年度末	令和4年度末	差 異
固定資産	55,056,165	55,076,599	△ 20,434
有形固定資産	23,153,855	18,859,543	4,294,312
土地	5,397,487	5,397,487	0
建物	11,592,628	8,396,013	3,196,615
教育研究用機器備品	2,128,154	1,430,339	697,815
図書	666,948	644,389	22,559
建設仮勘定	0	2,129,735	△ 2,129,735
特定資産	31,370,123	35,648,851	△ 4,278,728
第2号基本金引当特定資産	0	4,623,820	△ 4,623,820
第3号基本金引当特定資産	23,539,000	23,539,000	0
退職金引当特定資産	3,291,278	3,181,644	109,634
減価償却引当特定資産	4,363,750	4,158,455	205,295
その他の固定資産	532,187	568,204	△ 36,017
流動資産	4,830,000	4,670,575	159,425
現金・預金	4,191,027	4,013,130	177,897
未収入金	619,384	635,139	△ 15,755
<b>資産の部合計</b>	<b>59,886,166</b>	<b>59,747,174</b>	<b>138,991</b>
固定負債	3,336,655	3,409,829	△ 73,174
退職給与引当金	3,334,616	3,409,829	△ 75,213
流動負債	1,625,823	1,505,034	120,789
未払金	538,983	533,074	5,909
前受金	641,017	535,400	105,617
<b>負債の部合計</b>	<b>4,962,479</b>	<b>4,914,864</b>	<b>47,615</b>
基本金	74,887,803	74,609,020	278,783
第1号基本金	50,804,803	45,902,200	4,902,603
第2号基本金	0	4,623,820	△ 4,623,820
第3号基本金	23,539,000	23,539,000	0
第4号基本金	544,000	544,000	0
繰越収支差額	△ 19,964,117	△ 19,776,710	△ 187,407
<b>純資産の部合計</b>	<b>54,923,686</b>	<b>54,832,310</b>	<b>91,376</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>59,886,166</b>	<b>59,747,174</b>	<b>138,991</b>

## 2. 経年比較

### ①資金収支計算書項目



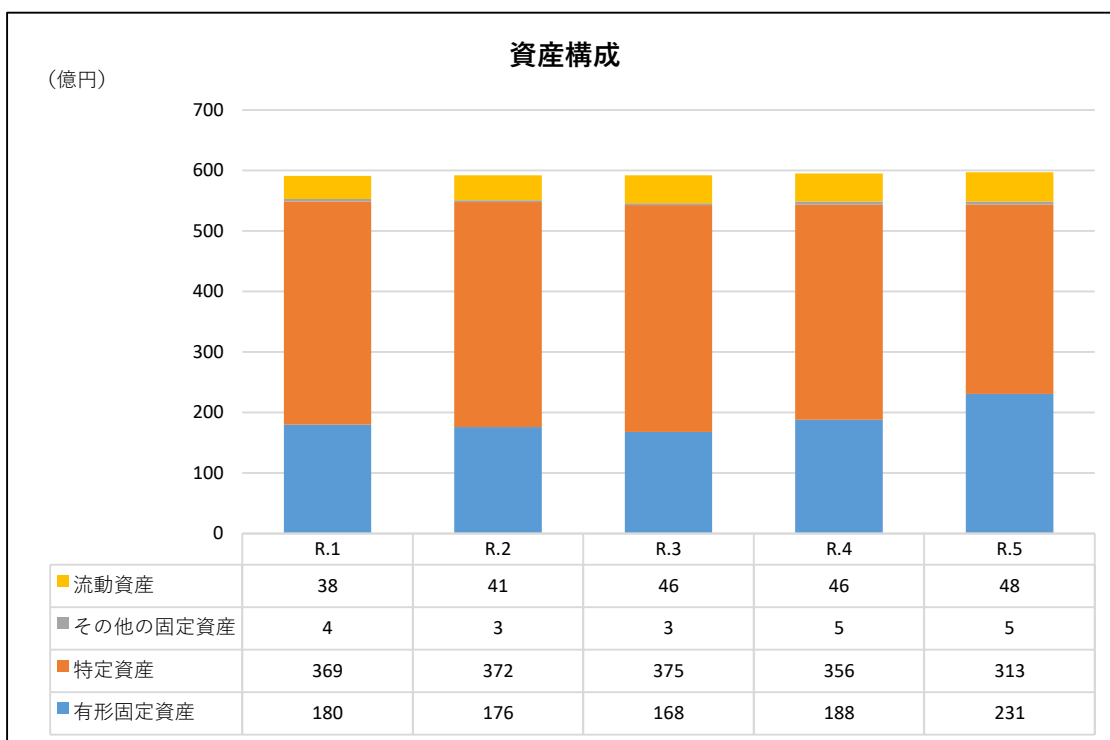
②事業活動収支計算書項目

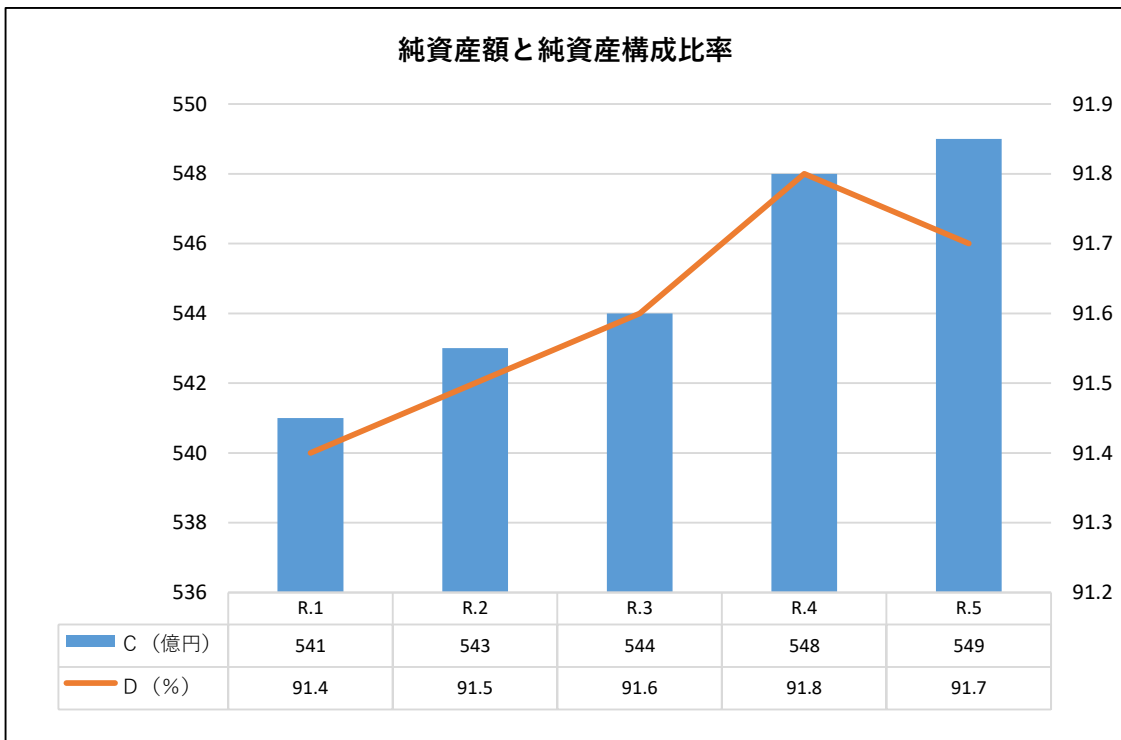
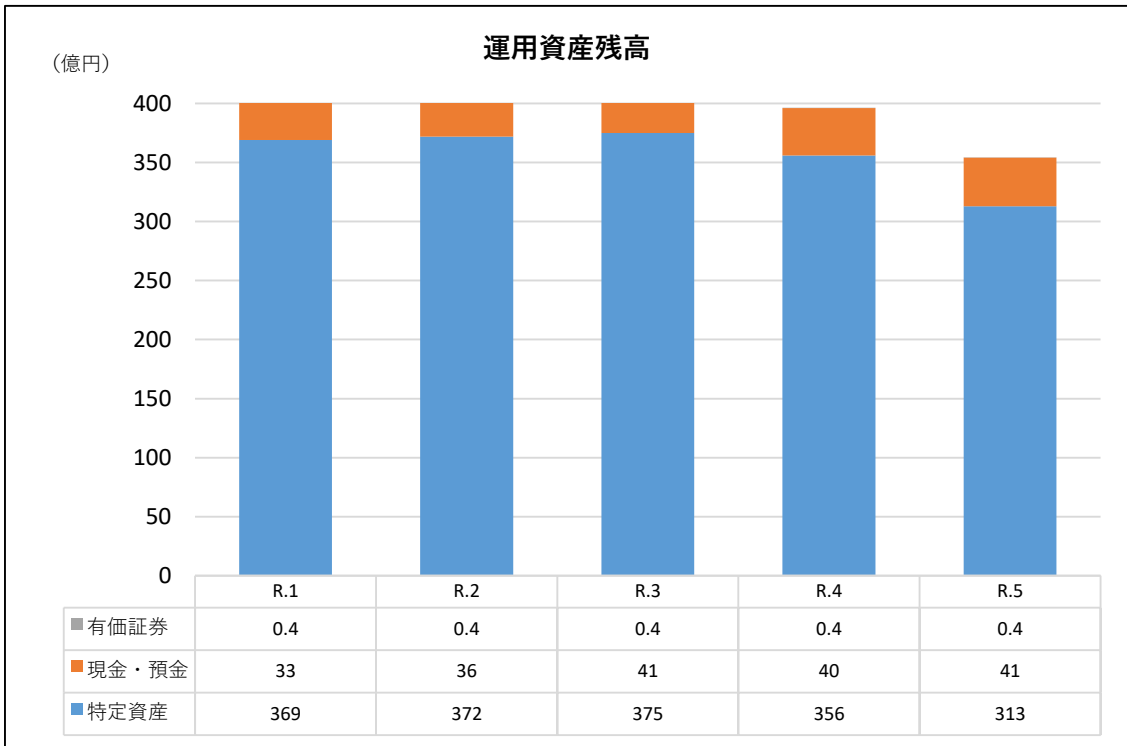


A：経常収支差額

B：経常収支差額比率

③貸借対照表項目





C：純資産額

D：純資産構成比率

### 3. 財務比率

#### ①主な財務比率

項目	単位	R.1	R.2	R.3	R.4	R.5
固定資産構成比率	%	93.5	92.9	92.1	92.2	91.9
固定比率	%	102.3	101.6	100.6	100.4	100.2
流動比率	%	279.1	301.8	314.5	310.3	297.1
負債比率	%	9.4	9.3	9.2	9.0	9.0
内部留保資産比率	%	59.4	60.3	61.7	58.2	51.2
運用資産余裕比率	年	5.1	5.2	5.3	4.8	4.0
純資産構成比率	%	91.4	91.5	91.6	91.8	91.7
人件費比率	%	53.6	53.9	52.0	51.3	52.0
教育研究経費比率	%	37.0	36.0	35.7	36.6	39.6
管理経費比率	%	7.0	6.7	6.3	7.8	7.4
事業活動収支差額比率	%	2.4	3.3	0.8	4.3	1.0
学生生徒等納付金比率	%	59.6	59.3	57.2	55.6	54.6
補助金比率	%	5.3	5.5	5.6	6.1	4.9
経常収支差額比率	%	2.4	3.4	5.9	4.3	1.0

#### ②主な財務比率の内容説明

項目	内容説明
固定資産構成比率	資産構成のバランスをみるための指標
固定比率	固定資産に対しどの程度純資産が投下されているか評価する指標
流動比率	短期的な支払い能力を評価する指標（200%以上であれば優良）
負債比率	他人資金と自己資金の割合を評価する指標（低いほど良い）
内部留保資産比率	運用資産の蓄積度を評価する指標（高いほど良い）
運用資産余裕比率	経常的支出規模に対し運用資産の蓄積度を表す指標（高いほど良い）
純資産構成比率	財政的な安定度を評価する指標（高いほど良い）
人件費比率	人件費の経常収入に占める割合（低いほど良い）
教育研究経費比率	教育研究経費の対経常収入割合（収支均衡を失しない範囲で高いほど良い）
管理経費比率	管理経費の経常収入に占める割合（低いほど良い）
事業活動収支差額比率	事業活動収入に対する基本金組入前当年度収支差額が占める割合
学生生徒等納付金比率	学納金の計上収入に占める割合（安定的推移が望ましい）
補助金比率	補助金の事業活動収入に占める割合
経常収支差額比率	形状的な収支バランスを表す割合